2021 年度　シラバス（授業要覧）

専攻科福祉専攻



1-1

科　目	社会の理解	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	自身の生活から想起し、他者の生活、社会との関りを理解していく。また、社会全体の動向から個人の生活へ視点を戻していく。個人の自立した生活と、社会との関わり、制度ができるまでの歴史的変遷から現代の社会保障を考える。		
到達目標	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わり、社会保障や介護等に関する制度について学ぶ。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している諸制度に関する理解度を測るために、到達確認テストを実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション	自分を取り巻く人間とその関係について、振り返っておく
2.	生活と福祉（1）	前回の復習をする
3.	生活と福祉（2）	前回の復習をする
4.	生活と福祉（3）	前回の復習をする
5.	社会保障制度（1）	前回の復習をする
6.	社会保障制度（2）	前回の復習をする
7.	社会保障制度（3）	前回の復習をする
8.	介護保険制度（1）	前回の復習をする
9.	介護保険制度（2）	前回の復習をする
10.	介護保険制度（3）	前回の復習をする
11.	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する制度（1）	前回の復習をする
12.	高齢者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する制度（2）	前回の復習をする
13.	介護実践に関わる諸制度（1）	前回の復習をする
14.	介護実践に関わる諸制度	前回の復習をする
15.	まとめ	これまでの授業内容を振り返っておく

教科書	なし
参考書	なし
学習成果の評価方法	受講態度（20%）小テスト（40%）授業内課題（40%） 各課題については授業内で評価・コメントをフィードバックします
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	

1-2

科　目	介護と福祉Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護福祉の基本となる理念、、介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と機能を学ぶ。介護サービスとその歴史的展開や特性をを理解し、チームを担う介護福祉士として他職種協働について学び、求められる介護福祉士像について考える		
到達目標	専門職としての社会的役割、介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職としての役割を理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を理解する。		
学習成果の評価基準	専門職としての社会的役割、介護を必要とする人の尊厳ある生活を支援する専門職としての役割の理解については、小テストにて7割以上の解答ができる。 介護福祉の専門職としての能力と態度についてレポートにまとめることができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション　「介護福祉士」のイメージについて考える	介護福祉士のイメージ。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
2.	介護福祉士を取り巻く状況①介護の歴史（少子高齢化　・家族形態、家族機能の変化）	「介護の基本Ⅰ」第1章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
3.	介護福祉士を取り巻く状況②（老々介護・高齢者の自殺　・介護殺人　・高齢者虐待等）	新聞記事を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
4.	介護福祉士を取り巻く状況③（時代の変化に伴う介護ニーズの変化）	「介護の基本Ⅰ」1. 2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
5.	介護の社会化と介護福祉士の役割	「介護の基本Ⅰ」1. 2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
6.	介護福祉士の役割と機能①（社会福祉士及び介護福祉士法について理解し、介護福祉士の定義と専門性）	「介護の基本Ⅰ」1. 2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
7.	介護福祉士の役割と機能②（名称独占と業務独占、介護福祉士の職業倫理）	「介護の基本Ⅰ」1. 2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
8.	介護福祉士の役割と機能③（専門職団体の役割と活動、介護福祉士養成の仕組み）	「介護の基本Ⅰ」3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
9.	介護サービスの意味と特性	「介護の基本Ⅱ」1. 2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
10.	介護サービスの歴史的背景と現在の高齢化社会の介護	「介護の基本Ⅱ」1. 2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
11.	イギリス、アメリカ、ドイツ、スゥエーデン（北欧）の介護サービスと日本の介護サービス	配布資料を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
12.	多様化する介護サービス（提供の場様々な介護ニーズと介護保険制度によるサービスの概要）	「介護の基本Ⅰ」1. 2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
13.	介護サービスの提供の場とその特性（入所系サービス、在宅系サービス、地域密着型サービス）	「介護の基本Ⅰ」1. 2章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
14.	介護サービスの提供と他職種共同と地域連携	「介護の基本Ⅰ」1. 2,4章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
15.	まとめ　求められる介護福祉士像	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」・「介護の基本Ⅱ」　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（２０%）小テスト（４０%）　レポート（４０%）小テスト・レポートは評価、コメントを記入後返却し、フィードバックします。
特記すべき事　項	記録等の提出物については時間厳守のこと。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。また、クラスルームにても質問を受け付けます。

1-3

科　目	介護と福祉Ⅱ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	生活問題は、複雑な社会構造の産物であり、国や地方自治体は、福祉・社会保障制度により、発生する生活問題に対応すべく事業を行っている。その基盤は憲法第25条にあるが、本講義においては、生活者の視点に立った保障政策とはいかなるものであるべきかを考察できるように、基本的な政策事項は徹底して理解し、課題を整理していく。		
到達目標	生活問題、快適な生活、家族の機能と役割、地域社会、社会の概念、労働環境、自助・互助・共助・公助の概念をそれぞれに理解し、社会保障の歴史的変遷を学び、その仕組みについて理解する。		
学習成果の評価基準	社会保障の仕組みについて具体的な理解を図り、理解度は小テストを用いて評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	生活問題とは何か 生活問題とは何かを理解し、その発生メカニズムを考察する	生活問題について自分の考えをまとめておく
2.	生活の構造 人が人らしく生活することはいかなることかを考える	ＱＯＬとＡＤＬについて調べておく
3.	家庭とは 生活の拠点である家庭、家族の意味を考える	家族について新聞記事を読んでおく
4.	地域社会と個人 生活の基盤である地域社会の仕組みと役割について理解する	自分の地域にある組織を調べておく
5.	人と社会、組織 社会の仕組みについて考える	身近な組織について考えまとめておく
6.	現代のライフスタイル 人間生活に与える影響を学習する	自身のライフスタイルを振り返っておく
7.	生活の支援と福祉の体系	身近な生活と支援を結びつけるワークプリントの実施
8.	社会保障に基本的な考え方	憲法を読んでおく
9.	社会保障の歴史①	これまでの授業の復習
10.	社会保障の歴史②	前回の復習
11.	社会保障制度の仕組み 年金制度	前回の復習
12.	社会保障制度の仕組み 医療保険・労災保険・雇用保険	前回の復習
13.	社会保障制度の仕組み 生活保護	前回の復習
14.	社会保障制度の仕組み 手当制度等、低所得者対象の制度	前回の復習
15.	社会保障制度の今後と課題	これまでの授業内容を振り返っておく

教科書	テキスト：新・介護福祉士養成講座２「社会と制度の理解」中央法規 適宜プリントを配布する
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　15%、小テスト　85% 小テストについては、その都度解説し、フィードバックする。
特記すべき事項	担当者は、介護福祉士として実務経験5.5年を有する。
質問・相談等の受付	メールにて随時受付　（murakami@kyushuotani.online）

1-2

科　目	介護と福祉Ⅲ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護現場においていかに対象者の生老病死と向き合い、共に生きていけるのか。仏教福祉の視点から、特に親鸞と蓮如の教えに学びながら考え、それを表現していく。		
到達目標	・親鸞と蓮如についての基本的な理解をもち、その思想が私たちに教えることについて他者に向けて表現することができる。 ・前項を通して、生老病死についての問いをもつことの大切さを知り、視野を広げ、豊かな人間性を養うことができる。		
学習成果の評価基準	到達目標の達成度を測るために、毎回の振り返りやまとめを実施し「受講態度」の評価とする。また、実地研修に向けた準備と実地研修を実施し「実地研修」として到達目標の達成度を評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	仏教福祉とは　ガイダンス・授業概要の確認	『授業要覧』を読む
2.	親鸞という人 親鸞の生まれた時代	ノートをまとめる
3.	親鸞の出家 親鸞のうた「明日ありとおもうこころのあだ桜　夜半に嵐の吹かぬものかは」	ノートをまとめる
4.	これまでの学習内容についてのまとめ	ノートを振り返り整理する
5.	親鸞の生涯の概略 親鸞の入滅 入滅（入涅槃）とは	ノートをまとめる
6.	親鸞の教え（恩徳讃） 恩とは	ノートをまとめる
7.	これまでの学習内容についてのまとめ	ノートを振り返り整理する
8.	蓮如について	ノートをまとめる
9.	白骨の御文	ノートをまとめる
10.	これまでの学習内容についてのまとめ	ノートを振り返り整理する
11.	実地研修に向けた準備（1）	資料の作成
12.	実地研修に向けた準備（2）	資料の作成
13.	実地研修	研修準備
14.	実地研修の振り返り	研修の振り返りの準備
15.	まとめ　授業内容についての振り返り	ノートを振り返り整理する

教科書	『親鸞 生涯と教え』
参考書	授業の中で紹介する。
学習成果の評価方法	「受講態度」〔毎回の振り返りとまとめ〕（70%）、「実地研修」（30%）
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法でも可能です。

1-5

科　目	介護と福祉Ⅳ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	障害のある人や高齢者の暮らしの実態を理解し、生活を支える諸制度を学び、尊厳を支える介護とはどのような介護実践であるのかを考える。		
到達目標	一人ひとりの利用者の尊厳と自立の視点を大切にし、介護福祉士の役割と尊厳を支える介護を学び、介護実践できる能力を養う。		
学習成果の評価基準	生活を支える諸制度について、自身の生活と重ね合わせ興味を持つ。理解度は小テストを用いて評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	利用者の暮らしの理解	実習の様子をまとめておく
2.	尊厳を支える介護	利用者の尊厳と支援の内容を考える
3.	高齢者を支える制度の内容 高齢者を支える制度	前回の復習
4.	高齢者を支える制度の内容 生活保護と年金など	前回の復習
5.	高齢者を支える制度の内容 認知症対応型グループホーム	前回の復習
6.	高齢者を支える制度の内容 ケアマネジメント	前回の復習
7.	介護保険制度の確認	前回の復習
8.	高齢者の所得補償	前回の復習
9.	障害者の暮らしの理解	実習やこれまでに出会った障害のある人についてまとめておく
10.	知的障害者・精神障害者等のニーズ	前回の復習
11.	障害者を支える制度	前回の復習
12.	障害者の就職・医療に関する基本的内容	前回の復習
13.	障害者の経済的支援	前回の復習
14.	障害者のグループホーム	前回の復習
15.	介護保険制度・障害者総合支援法の確認、まとめ	これまでの授業内容を振り返っておく

教科書	テキスト：新・介護福祉士養成講座２「社会と制度の理解」中央法規 適宜プリントを配布する
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　50%、小テスト　25%、授業内課題　25% 小テスト、授業内課題については、その都度解説とフィードバックを行う。
特記すべき事項	担当者は、介護福祉士として実務経験5.5年を有する。
質問・相談等の受付	メールにて随時受付　（murakami@kyushuotani.online）

1-6

科　目	介護の基本Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	永山　寛・高木和大	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	思想的な背景、介護を取り巻く課題等を考えながら、「尊厳の保持」や「自立支援」についての理解を深め、人間尊重を基盤とした「介護観」を身に付ける。また、「尊厳の保持」「自立支援」について、介護を必要とする人の生活を支える意義や実践について、自分たちの生活と照らし合わせながら学ぶ。		
到達目標	介護実践における「尊厳の保持」「自立支援」を基本とし、専門職としての「介護観」を持つことができる。		
学習成果の評価基準	授業成績は、授業への取組み態度（主体性やグループワークなど）、知識・技能の確認小テストおよびレポート提出等により総合評価し、総合評価が60%以上で合格（C判定以上）となる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション「この授業で学ぶこと」	介護のイメージについて自分の考えを持つ
2.	尊厳を支える介護①「介護のイメージ」	テキストを読み、介護とは何かを考えておく
3.	尊厳を支える介護②「人間の尊重とＱＯＬ」	テキストを読み、ＱＯＬについて考えておく
4.	尊厳を支える介護③「ノーマライゼーション」	テキストを読み、ノーマライゼーションとは何かを考えておく
5.	尊厳を支える介護④「利用者主体」	テキストを読み、利用者意識を高めておく
6.	尊厳を支える介護⑤「人権擁護」	テキストを読み、人権擁護の観点を考えておく
7.	自立に向けた介護①「自立と自律」	テキストを読み、自立と自律について考えておく
8.	自立に向けた介護②「自己決定」	テキストを読み、自立生活の概念について考えておく
9.	自立に向けた介護③「自立支援」	テキストを読み、自立支援の働きかけを考えておく
10.	自立に向けた介護④「個別ケア」	テキストを読み、個別ケアの考え方を調べておく
11.	自立に向けた介護⑤「ＩＣＦの考え方とＩＣＦの視点」	テキストを読み、ＩＣＦについて考えておく
12.	自立に向けた介護⑥「リハビリテーションの考え方」	テキストを読み、リハビリテーションについて考えておく
13.	自立に向けた介護⑦「リハビリテーションの実際」	リハビリテーションの実践に備えておく
14.	自立に向けた介護⑦「介護予防」	テキストを読み、介護予防の概念について考えておく
15.	介護職の職業倫理	これまでの授業を振り返り、介護職の倫理性を考えておく

教科書	新・介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」「こころとからだのしくみ」中央法規
参考書	適宜、関係資料を配布する
学習成果の評価方法	受講態度（20%）、小テスト（40%）、授業内課題（40%） テストや課題については、授業内でフィードバックします。
特記すべき事項	なし
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所にて受け付ける。

科　目	介護の基本Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護における安全の確保やチームケア・連携、また介護職の倫理やリスクマネジメント等について学習し、介護福祉の専門職としての能力や態度を養う。		
到達目標	1. 介護を取り巻く環境の変化と、これからの専門職としての介護福祉士の在り方について述べることができる。 2. 介護従事者の倫理及び健康管理、安全管理等含めたリスクマネジメントについて理解できる。		
学習成果の評価基準	この科目では、課題レポートやグループワーク、ディベートを中心に授業展開する。 授業内で意見交換する際には、活発なグループワークを求めるため、予習による自己学習が必要となる。コマ毎のレディネスも積極的な受講態度の評価の一つとする。 また、相手の意見を聴き理解しようとする姿勢や、自己の考えを相手に伝えようとする姿勢・表現能力（レポート、定期試験等）を総合的に評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	介護福祉を必要とする人の理解	教科書　第1章、配布資料
2.	介護福祉士の倫理	教科書　第4章、配布資料
3.	介護福祉士の役割とその機能を支えるしくみ	教科書　第2章、配布資料
4.	介護サービスと介護福祉士の働く場	教科書　第2章、配布資料
5.	介護実践における連携、多職種の機能と役割	教科書　第4章、配布資料
6.	介護における安全の確保とリスクマネジメント	教科書　第3章、配布資料
7.	リスクマネジメント①「施設・在宅での事故」	教科書　第3章、配布資料
8.	リスクマネジメント②「医療現場の事故」	教科書　第3章、配布資料
9.	リスクマネジメント③「緊急時の対応」	教科書　第3章、配布資料
10.	リスクマネジメント④「緊急時の対応」	教科書　第3章、配布資料
11.	リスクマネジメント⑤「感染症対策」	教科書　第3章、配布資料
12.	介護従事者の健康管理の意義と目的	教科書　第5章、配布資料
13.	介護従事者の安全①「健康管理」	教科書　第5章、配布資料
14.	介護従事者の安全②「メンタルヘルス」	教科書　第5章、配布資料
15.	介護従事者の安全③「労働環境の整備」	教科書　第5章、配布資料

教科書	最新・介護福祉士養成講座4　介護の基本Ⅱ　中央法規出版
参考書	なし
学習成果の評価方法	課題レポート（20%）、学習態度（30%）、定期試験（50%） その都度教員によるフィードバックを実施する。
特記すべき事項	実務経験　看護師（11年）、保健師（3年）
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室

1-8

科　目	コミュニケーション	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	山田俊之・森永牧子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	身体を使ったボディパーカッション教育を活用して、コミュニケーション能力を高める。また、福祉現場に役に立つスキルを身に付ける。 介護福祉士として、利用者や家族との信頼関係を構築できるコミュニケーション技術についてその理論と方法論を学ぶ。		
到達目標	身体を使ったボディパーカッション教育を活用して、コミュニケーション能力を高めることができる。 福祉現場に役に立つスキルを身に付けることができる。 対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を 養う。		
学習成果の評価基準	到達目標の達成度を測るため、小テストや授業内課題でコミュニケーション能力を測り評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	コミュニケーションとは コミュニケーションの意義と目的	テキストP. 2-7
2.	話を聞く技法（積極的傾聴、カウンセリング技法） 相手の立場に立つ（1）	前回の復習
3.	話を聞く、納得するということ（相手の立場で考える） 相手の立場に立つ（2）	前回の復習
4.	利用者や家族の背景理解とコミュニケーション 利用者や家族の背景理解のためのコミュニケーション方法	前回の復習
5.	利用者のコミュニケーション能力を拓く（☆） 専門性を背景にした共感性を身につける（1）	前回の復習
6.	利用者のコミュニケーション能力を引き出す(☆) 専門性を背景にした共感性を身につける（2）	前回の復習
7.	介護者のコミュニケーション技術を拓く（☆）① 自己理解と共感性を身につける（1）	前回の復習
8.	介護者のコミュニケーション技術を拓く（☆）② 自己理解と共感性を身につける（2）	前回の復習
9.	利用者の症状理解とコミュニケーション① 認知症に対応するコミュニケーション技術	認知症の症状について理解しておく
10.	利用者の症状理解とコミュニケーション② 感覚機能の低下・運動機能の低下に対応するコミュニケーション技術	感覚機能の低下や運動機能の低下について理解してお
11.	技術利用者の症状理解とコミュニケーション③ 聴覚機能低下に対応するコミュニケーション技術	聴覚機能低下について理解しておく
12.	利用者の症状理解とコミュニケーション④ 知的機能の低下や自閉症、精神障害に対応するコミュニケーション	知的機能の低下や自閉症、精神障害について理解しておく
13.	本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践 様々な場面（入所施設・在宅・通所施設）におけるコミュニケーション技術	家族とのコミュニケーション方法について復習しておく
14.	様々な対象者とのコミュニケーションの実際 地域デイサービスでの実践	地域デイサービスでの実践を計画する
15.	まとめ 利用者や家族との信頼関係を構築できるコミュニケーション技術	これまでの復習

教科書	新・介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術 」中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（３０%）　小テスト（３０%）　授業内課題（４０%）
特記すべき事　項	
質問・相談等の受付	

1-9

科　目	コミュニケーション技術	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	井形美子・大石万里子・森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	（手話）　聴覚障がいの理解とコミュニケーション技術を学ぶ。 点字をとおして視覚障がいの理解とコミュニケーション技術を学ぶ。 障がいを持つ子どもとのコミュニケーション技術について学ぶ。		
到達目標	（手話）　手話によるコミュニケーションができるようにする。 （点字）点字で五十音を学び、短文のマスあけを理解し、点字の文章で視覚障がい者とのコミュニケーション技術を理解することができる。 様々方法を用いたコミュケーション技術を理解することができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に対しての学習成果は、小テスト、授業内課題にて評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	手話を学ぶにあたって 挨拶の手話表現	手話表現の仕方を覚え、手話の特徴を理解する
2.	聴覚障がいについて 指文字表現	指文字表現の仕方を覚え、耳のしくみ・聴覚障がいの特性を理解する
3.	コミュニケーション手段について 自己紹介シート記入	手話・指文字表現の仕方を工夫し、あらゆるコミュニケーション仕方を習得する
4.	聞こえない環境について 自己紹介シートでの手話表現（名前・年齢）	手話・指文字表現の仕方を工夫し、聴覚障がい者の生活の不便さを考察する
5.	聴覚障がい者の生活について（1） 自己紹介シートでの手話表現（誕生日・家族）	手話・指文字表現の仕方を工夫し、聴覚障がい者の生活の不便さをなくすことを学ぶ（1）
6.	聴覚障がい者の生活について（2） 自己紹介シートでの手話表現（住所/出身地）	手話・指文字表現の仕方を工夫し、聴覚障がい者の生活の不便さをなくすことを学ぶ（2）
7.	接し方について 自己紹介シートでの手話表現（趣味・九州大谷短大）	手話・指文字・ジェスチャー表現の仕方を工夫し、聴覚障がい者の接し方を心構える
8.	まとめ及び手話表現評価	手話・指文字・ジェスチャー表現の仕方を工夫し、発表する
9.	視覚障がい者の実態について 点字の成り立ち	重度視覚障害者の生活について関心をもつ
10.	単語を点字で書く 童謡の歌詞を点字で書く	点字盤の使い方・五十音･濁音･拗音・数字
11.	「点訳のしおり」の説明　相手の立場に立つことができる（2）	前回の復習
12.	短文を点字で書く① 短文を点字で書く②	前回の復習
13.	自分でマスあけをして点字で書く	前回の復習
14.	障がいを持つ子どもとのコミュニケーション技術①	手話・点字の復習
15.	まとめ　障がいを持つ子どもとのコミュニケーション技術②	これまでの授業の復習

教科書	新・介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術 」中央法規　「点訳のしおり」社会福祉法人日本点字図書館
参考書	（手話）　随時、必要なプリント・資料を配付する。
学習成果の評価方法	（手話）授業での介護ロールプレイに積極的に参加する（1割） 聴覚・言語障がいのある人についての理解度をはかるために授業内試験をする（6割）
特記すべき事　項	（手話）手話表現する際、フェイスシールドを着用する
質問・相談等の受付	授業後に、必要に応じ受付する

1-10

科　目	生活支援技術Ⅰ	開講時期 履修方法	１年前期 必修、専門科目
担当者	上野敦子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・生活技術の学習を通して、福祉と教育の視点より、基本的な知識と技術の大要を学ぶ。		
到達目標	・家事の介助技法の習得を通して、現場での実践力につなげるようになる。 ・高齢者、障害者等の心情を共有できる幅広い人間性を持った資質・能力を身につけることができるようになる。		
学習成果の評価基準	・到達目標に明示している項目の達成度を測るために、小テスト・レポート等到達度確認テストを実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	家事の意義と目的	家事の意義と目的について調べておく
2.	調理の支援	調理のプロセスを理解する
3.	調理（お茶の入れ方と和菓子）	お茶の入れ方、和菓子の作り方について復習する
4.	調理（卵料理と魚の扱い方）	卵、魚の調理法について復習する
5.	調理（粥ととろみのつけ方）	とろみのつけ方について復習する
6.	調理（加工食品の利用）	加工食品の利用法につい復習する
7.	調理（電子レンジの利用）	電子レンジの調理方法について復習する
8.	調理（冷凍食品の利用）	冷凍食品を利用した調理方法について復習する
9.	調理（生活習慣病の食事）	生活習慣病の特性を知り、その調理方法について復習する
10.	洗濯（洗剤と洗浄実験）	洗剤の選択と洗浄過程について復習する
11.	洗濯（しみ抜き実験と表示）	しみの種類によるしみ取り方法について復習する
12.	裁縫（衣類の補修）	手縫いによる衣類の補修方法について復習する
13.	衣類・寝具の衛生管理（おむつの保水量実験と蒸れ）	衣類、寝具の管理方法について復習する
14.	高齢者・障碍者の衣服とおしゃれ	高齢者、障害者の衣類の特徴について復習する
15.	掃除・ゴミ捨て・買い物	清掃方法、買い物について復習する

教科書	最新・介護福祉養成講座6「生活支援技術Ⅰ」
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（１０%）　小テスト（１０%）　授業内課題（１０%）　定期試験（６０%）　授業内発表（１０%） 小テスト、定期試験については、コメントにてフィードバックします。
特記すべき事項	休んだ場合は、その授業内容を必ず自己学習しておく。
質問・相談等の受付	授業終了後に、質問・相談等受け付けます。

科　目	生活支援技術Ⅱ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・移動・移乗に関する基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・介護を必要とする人のニーズを理解し、移動・移乗の介助の技法を習得し、自立に向けた移動・移乗の介護について学ぶ		
到達目標	・移動・移乗に関する基礎的な知識と技術を理解する。 ・介護を必要とする人のニーズを理解し、移動・移乗の介助の技法を習得し その人らしい生活を支える移動・移乗の介助について考えることができる		
学習成果の評価基準	・移動・移乗に関する基礎的な知識について小テストにて評価する。 ・その人らしい生活を支える移動・移乗の技術の技法について考え実践することができる。 ・自立に向けた移動・移乗の介助について利用者の生活全体から考えレポートすることができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション　生活援助技術の中の「移動・移乗」について学ぶ意義	自分自身の移動・移乗について関心をもつ。授業後、プリント・ノートを確認する。
2.	移動・移乗に関するアセスメント　ＩＣＦの視点からの移動・移乗に関するアセスメント	「生活支援技術Ⅰ」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
3.	介護技術の基本　ボディメカニクスの習得	「生活支援技術Ⅰ」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
4.	自立に向けた移動の介助①ベット上の環境（ベットメイキング）	「生活支援技術Ⅰ」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
5.	自立に向けた移動の介助②安楽な体位とベット上での移動（体位変換）	「生活支援技術Ⅰ」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
6.	自立に向けた移動の介助③歩行介助（杖・シルバーカー・歩行器）	「生活支援技術Ⅰ」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
7.	自立に向けた移動の介助④車いすへの移乗（ベット⇔車いす）	「生活支援技術Ⅰ」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
8.	自立に向けた移動の介助⑤車いすでの移動（平地・坂道・不整地・段差）	「生活支援技術Ⅰ」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
9.	自立に向けた移動の介助⑥車いすでの外出介助	公園へ外出計画を立てる。 実践をふりかえる。
10.	自立に向けた移動の介助⑦ストレッチャー・リフターの介助	「生活支援技術Ⅰ」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
11.	自立に向けた移動の介助⑧リフター・スライディングシート・スライドボード の介助	「生活支援技術Ⅰ」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
12.	運動機能が低下してる人の移動・移乗の介助の方法 運動機能を把握した、移動・移乗介助の方法と留意点	運動機能の低下について調べる「生活支援技術Ⅲ」参考当日の配布プリント・ノートを確認する。
13.	認知症高齢者の移動・移乗の介助の方法　認知症高齢者の特徴を理解した、移動・移乗介助の方法と留意点	認知機能の低下について調べる「生活支援技術Ⅲ」参考当日の配布プリント・ノートを確認する。
14.	移動・移乗の介助における他職種協働　観察の視点の理解とそれぞれの職種の役割と協働	「生活支援技術Ⅰ」第3章を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
15.	まとめ　自立に向けた移動・移乗の介助　その人らしい生活を支える移動・移乗介助について、生活全体から考える。	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」・「生活支援技術Ⅱ」　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	小テスト（２０％）、実技演習（４０％）、レポート作成（２０％）、授業態度（２０％）　レポートはフィードバック後、返却します。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックします。
特記すべき事項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨んで下さい。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。 クラスルームでも質問を受け付けます。

1-12

科　目	生活支援技術Ⅲ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・「食事の介助・口腔の衛生」に関する基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・介護を必要とする人のニーズを理解し、「食事の介助･口腔の衛生」の技法を習得し、自立に向けた「食事の介助・口腔の衛生」の介護について学ぶ。		
到達目標	・「食事の介助・口腔の衛生」に関する基礎的な知識と技術を理解する。 ・介護を必要とする人のニーズを理解し、「食事の介助･口腔の衛生」の技法を習得し その人らしい生活を支える「食事の介助・口腔の衛生」について考えることができる。		
学習成果の評価基準	・「食事の介助・口腔の衛生」に関する基礎的な知識については小テストにて評価。 ・その人らしい生活を支える「食事の介助・口腔の衛生」の技法を考え、実践することができる。 ・自立に向けてた「食事・口腔の衛生の介助」について利用者の生活全体から考えレポートすることができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション「食事」と「口腔ケア」について学ぶ義煮を把握する	自分の食生活について関心を持つ。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
2.	食事の意義と介護者の役割　食事の意義と目的　介護を必要とする人にとってのより良い食生活と介護者の役割	「生活支援技術Ⅱ」第2章をよんでおく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
3.	食事に関するアセスメント　ＩＣＦの視点からのアセスメントと適切な食事介助	「生活支援技術Ⅱ」第2章をよんでおく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
4.	安全で的確な食事介助の技法①栄養状態の保持推進、水分摂取量と食行動のメカニズム	「生活支援技術Ⅱ」第2章をよんでおく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
5.	安全で的確な食事介助の技法②おいしく食べるための献立、調理の工夫、環境面への配慮	「生活支援技術Ⅱ」第2章をよんでおく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
6.	安全で的確な食事介助の技法③咀嚼、嚥下困難について学び、誤嚥の予防と対策	「生活支援技術Ⅱ」第2章をよんでおく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
7.	安全で的確な食事介助の技法④水分補給の重要性と方法と脱水予防のための日常生活の留意点	「生活支援技術Ⅱ」第2章をよんでおく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
8.	自立に向けた食事の介助①自分で食事ができる人の食事介助座位での食事介助	「生活支援技術Ⅱ」第2章をよんでおく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
9.	自立に向けた食事の介助②運動機能が低下している人の食事介助の留意点や工夫	運動機能低下について調べておく「生活支援技術Ⅲ」参考。授業後配布プリントを確認しする。
10.	自立に向けた食事の介助③認知症高齢者の食事介助の留意点や工夫	認知機能低下について調べておく「生活支援技術Ⅲ」参考授業後配布プリントを確認しする。。
11.	自立に向けた食事の介助④視覚に障害をもつ人が安全に食事をするための留意点や工夫	視覚障害について調べておく「生活支援技術Ⅲ」参考。授業後配布プリントを確認しする。
12.	自立に向けた食事の介助⑤健康状態に応じた食事介助と福祉用具の活用経口摂取の継続の意義と工夫	「生活支援技術Ⅱ」第2章をよんでおく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
13.	口腔の清潔と口腔ケアの意義と目的口腔衛生の方法	プリント。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
14.	他職種の役割と協働　利用者のよりよい援助のための他職種と協働	「生活支援技術Ⅱ」第2章をよんでおく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
15.	まとめ その人らしい食事とは、口腔衛生とは何かについて、生活全体から考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」・「生活支援技術Ⅲ」　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	小テスト（２０％）、実技演習（４０％）、レポート作成（２０％）、授業態度（２０％）　レポートはフィードバック後、返却します。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックします。
特記すべき事項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨んで下さい。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームにても質問を受け付けます。

1-13

科　目	生活支援技術Ⅳ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子・後藤直暁・日本ｾﾗﾋﾟｭｰﾃｨｯｸ・ｹｱ	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	介護を必要とする人の理解を深め、人間の多様性及び高齢者や障がいのある人の暮らしの実際から介護を必要とする人の生活を様々な視点から支援する方法について学び、生活を豊かにする技術を習得する。		
到達目標	人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や障がいのある人介護を必要とする人の生活を様々な視点から支援する方法について理解し、生活を豊かにする技術を展開することができる。		
学習成果の評価基準	・高齢者の暮らしの実際や障がいのある人介護を必要とする人の生活の様々な視点からの理解は小テストにて評価する。 ・生活を豊かにする技術（折り紙・インファントセラピー）を実践することができる。 ・人間の多様性を理解し、生活の豊かさについてレポートすることができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション　生活を様々な視点から支える意義	自分の生活の楽しみについて考える。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
2.	介護を必要とする人の理解「人間の多様性①」高齢者の生活史を学び、価値観、生活感	身近な高齢者と関わりを持つ。授業後配布プリント、ノートを確認しする。。
3.	介護を必要とする人の理解「人間の多様性②」高齢者の暮らしの実際	高齢者に昔の話をきく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
4.	介護を必要とする人の理解「人間の多様性③」障がいのある人の生活ニーズ	障がいについて復習しておく。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
5.	高齢者のアクティビティと余暇活動①高齢者の社会的活動	高齢者の社会的活動について関心を持つ。授業後配布プリント、ノートを確認しする。
6.	高齢者のアクティビティと余暇活動②高齢者の余暇活動	身近な高齢者授業後配布プリント、ノートを確認しする。の余暇活動について関心を持つ。
7.	高齢者のアクティビティと余暇活動③高齢者のアクティビティ活動	身近な高齢者のアクティビティについて関心を持つ。授業後プリントを確認しする。
8.	高齢者のアクティビティと余暇活動④高齢者の生活を豊かにする活動	身近な高齢者の生活の豊かさについて関心を持つ。授業後プリントを確認しする。
9.	高齢者のアクティビティと余暇活動⑤高齢者地域デイサービスでの実践	地域デイサービスの計画を立てる。授業後プリントを確認しする。
10.	障がいを持つ人のアクティビティと余暇活動①障がいを持つ人の社会的活動	身近な障害を持つ人の社会的活動について関心を持つ。授業後プリントを確認しする。
11.	障がいを持つ人のアクティビティと余暇活動②障がいを持つ人の余暇活動	身近な障害を持つ人の余暇活動について関心を持つ。授業後プリントを確認しする。
12.	障がいを持つ人のアクティビティと余暇活動③障がいを持つ人のアクティビティ活動	身近な障害を持つ人のアクティビティについて関心を持つ。授業後プリントを確認しする。
13.	障がいを持つ人のアクティビティと余暇活動④障がいを持つ人の生活を豊かにする活動	身近な障害を持つ人の生活の豊かさについて関心を持つ。授業後プリントを確認しする。
14.	障がいを持つ人のアクティビティと余暇活動⑤障がいを持つ人との交流をとおして実践する	障害を持つ人との交流へ向けて計画を立てる。授業後プリントを確認しする。
15.	まとめ　生活を豊かにする支援	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認しする。

教科書	インファントセラピスト(s) テキスト　プリント
参考書	
学習成果の評価方法	小テスト（２０%）、実技演習（４０%）、レポート作成（２０%）、授業態度（２０%）　レポートはフィードバック後、返却します。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックします。
特記すべき事項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨んで下さい。 インファントセラピスト（S）の資格取得が可能です。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームにても質問を受け付けます。

1-14

科　目	生活支援技術Ⅴ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位

授業概要	・身じたくに関する基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・介護を必要とする人のニーズを理解し、身じたく介助の技法を習得し、自立に向けた身じたくの介護について学ぶ。
到達目標	・身じたくに関する基礎的な知識と技術を理解する。 ・介護を必要とする人のニーズを理解し、身じたくの介助の技法を習得し その人らしい生活を支える身じたくの介助について考えることができる。
学習成果の評価基準	・身じたくに関する基礎的な知識については小テストにて評価する。 ・その人らしい生活を支える身じたくの介助の技法について考え実践することができる。 ・自立に向けた身じたくの介助について、利用者の生活全体から考えレポートすることができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション　生活の中の「身じたく」について理解する	自分の衣生活、装いについて関心をもつ授業後配布プリントを確認する。
2.	身じたくの意義と目的と介護者の役割　介護を必要とする人にとっての身じたくの重要性	「生活支援技術Ⅱ」第1章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
3.	身じたくに関するアセスメント　ＩＣＦの視点からのアセスメント	「生活支援技術Ⅱ」第1章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを認する。
4.	生活習慣と装いの楽しみを支える技法①高齢者や障がいを持つ人にとって生活習慣と装いの楽しみを支えることの意義	「生活支援技術Ⅱ」第1章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
5.	生活習慣と装いの楽しみを支える技法②意欲を引き出す、生活習慣と装いの楽しみを支える介助の留意点	「生活支援技術Ⅱ」第1章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
6.	衣類の着脱介助の技法①高齢者、障がいを持つ人の衣生活の基礎的知識を理解と適切な衣類選択	「生活支援技術Ⅱ」第1章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
7.	衣類の着脱介助の技法②高齢者、障がいを持つ人の衣類の着脱の介助の基本原則とその方法	「生活支援技術Ⅱ」第1章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
8.	身じたくの介護における他職種の役割と協働	「生活支援技術Ⅱ」第1章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
9.	運動機能が低下している人の身じたくの介助①全介助の介助方法の留意点の理解とその方法	運動機能低下の特徴について調べる「生活支援技術Ⅲ」参考。授業後プリントを確認する。
10.	認知症高齢者の身じたくの介助　認知症高齢者の身じたくに関する特徴の理解と介助の留意点	認知症高齢者の特徴について調べる「生活支援技術Ⅲ」参考。授業後プリントを確認する。
11.	感覚に障害をもつ人の身じたくの介助 感覚に障害をもつ人が安全に身じたくをするための留意点や工夫	感覚に障害がある人の特徴を調べる。「生活支援技術Ⅲ」参考。授業後プリントを確認する。
12.	整容の介助と口腔ケア　整容の口腔ケアの留意点と方法	「生活支援技術Ⅱ」第1章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
13.	運動機能が低下している人の整容の介助と口腔ケア　対象者の状態に合わせた介助の方法と留意点	運動機能低下の特徴について調べる「生活支援技術Ⅲ」参考。授業後プリントを確認する。
14.	認知症高齢者、感覚に障害を持つ人の整容の介助と口腔ケア　対象者の特徴に合わせた介助の方法と留意点	認知症高齢者の特徴について調べる。「生活支援技術Ⅲ」参考授業後プリントを確認する。
15.	まとめ 自立に向けた身じたくの介助　その人らしい身じたくの介助とは何かについて、生活全体から考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」・「生活支援技術Ⅲ」　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	小テスト（２０%）、実技演習（４０%）、レポート作成（２０%）、授業態度（２０%）　レポートはフィードバック後、返却します。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックします。
特記すべき事　項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨んで下さい。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。 クラスルームでも質問を受け付けます。

1-15

科　目	生活支援技術Ⅵ	開講時期 履修方法	１年前期 必修、専門科目
担当者	上野敦子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・生活及び生活支援などについて基本的な知識を学ぶ。また、高齢者や障害者にとって安全で快適な生活空間について学ぶ。		
到達目標	・家庭生活の意義や経営、管理などを学ぶことで利用者の生活歴や生活環境に配慮した支援力の向上を目指すことができるようになる。		
学習成果の評価基準	・到達目標に明示している項目の達成度を測るために、小テスト・レポート等到達度確認テストを実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	住居環境整備（意義と目的）	住生活環境整備の意義について復習する
2.	住居環境整備（生活空間と介護・環境問題・居住環境のアセスメント）	住生活環境における全般について復習する
3.	安心で快適な生活の場づくり（空間構成　①）	住宅空間の配置や各室の特性について復習する
4.	安心で快適な生活の場づくり（空間構成　②）	住宅空間の配置や各室の特性について復習する
5.	安心で快適な生活の場づくり（住まいの管理・安全性の確保）	住環境をめぐる安全性について復習する
6.	安心で快適な生活の場づくり（集団生活の場）	集団生活における住環境の工夫等について復習する
7.	室内環境の整備（掃除、ゴミ処理、リサイクル）	雄時、ゴミの分別、リサイクルについて復習する
8.	家庭生活とその変遷	家庭生活とその変遷について復習する
9.	生活設計（家計管理）	家庭生活の中での管理について復習する
10.	家庭経済	経済の循環について復習する
11.	消費者問題（悪徳商法）	消費者問題、悪徳商法について復習する
12.	高齢者・障害のある人を取り巻く経済生活	高齢者、障害者の経済生活について復習する
13.	現代社会の問題	現在社会の問題について復習する
14.	リサイクル（エコバック製作）	リサイクルについて復習する
15.	まとめ	今までの学びを復習する

教科書	最新・介護福祉養成講座6「生活支援技術Ⅰ」
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（１０%）　小テスト（１０%）　授業内課題（１０%）　定期試験（６０%）　授業内発表（１０%） 小テスト、定期試験については、コメントにてフィードバックします。
特記すべき事項	休んだ場合は、その授業内容を必ず自己学習しておく。
質問・相談等の受付	授業終了後に、質問・相談等受け付けます。

1-16

科　目	生活支援技術Ⅶ	開講時期 履修方法	１年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・排泄に関する基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・介護を必要とする人のニーズを理解し、排泄介助の技法を習得し、尊厳を守る排泄の介護について学ぶ。		
到達目標	・排泄に関する基礎的な知識と技術を理解する。 ・介護を必要とする人のニーズ理解し、排泄の介助の技法を習得し 尊厳を守る生活を支える排泄の介助について考えることができる。		
学習成果の評価基準	・排泄に関する基礎的な知識については、小テストにて評価する。 ・尊厳を守る生活を支える排泄の介助の技法について考え、実践することができる。 ・自立に向けた排泄介助について、利用者の生活全体から考えレポートすることができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション　生活援助技術の中の「排泄」について学ぶ意義を理解する	自分の排泄について関心を持つ。授業後配布プリント、ノートを確認する。
2.	排泄の意義と目的①排泄の身体的、精神的、社会的な側面からの排泄の理解	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
3.	排泄の意義と目的②排泄のメカニズム・排泄動作	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
4.	排泄に関するアセスメント　ＩＣＦの視点からの排泄に関するアセスメント	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
5.	爽快感・安楽を支える排泄　環境作りや介護の工夫	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
6.	安全、的確な排泄の介助の方法①安全、プライバシーの保護の留意点を理解したトイレでの介助	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
7.	安全、的確な排泄の介助の方法②安全、プライバシーの保護の留意点を理解したポータブルトイレを使用した介助	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
8.	安全、的確な排泄の介助の方法③安全、プライバシーの保護の留意点を理解した尿器・差し込み便器を使用した介護	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
9.	安全、的確な排泄の介助の方法④安全、プライバシーの保護の留意点を理解したオムツの介護	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく授業後配布プリント、ノートを確認する。。
10.	安全、的確な排泄介助の方法⑤安全、プライバシーの保護の留意点を理解したストーマ、カテーテル等の介護	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
11.	安全、的確な入浴、清潔保持の介助の方法⑥安全、プライバシーの保護の留意点を理解した、便秘、下痢への対応	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく授業後配布プリント、ノートを確認する。。
12.	運動機能が低下してる人の排泄の介助の方法　運動機能を把握した、排泄介助の方法と留意点	運動機能低下の特徴について調べる「生生活支援技術Ⅲ」参考。授業プリントを確認する。
13.	認知症高齢者の排泄の介助の方法　認知症高齢者の特徴を理解した排泄介助の方法と留意点	認知症高齢者、感覚に障害がある人特徴について調べる。授業後プリントを確認する。
14.	排泄介助における他職種協働　観察の視点の理解とそれぞれの職種の役割と協働	「生活支援技術Ⅱ」第４章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
15.	まとめ　自立に向けた排泄介助　その人らしい排泄とは何かについて、生活全体から考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」・「生活支援技術Ⅲ」　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	小テスト（２０%）、実技演習（４０%）、レポート作成（２０%）、授業態度（２０%）　レポートはフィードバック後、返却します。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックします。
特記すべき事　項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨んで下さい。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。 クラスルームでも質問を受け付けます。

1-17

科　目	生活支援技術Ⅷ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・入浴・清潔保持に関する基礎的な知識と技術を学ぶ。 ・介護を必要とする人のニーズを理解し、入浴・清潔保持の介助の技法を習得し、自立に向けた入浴・清潔保持の介護について学ぶ。		
到達目標	・入浴・清潔保持に関する基礎的な知識と技術を理解する。 ・介護を必要とする人のニーズを理解し、その人らしい生活を支える入浴・清潔保持の介助の技法を習得し その人らしい生活を支える入浴・清潔保持の介助について考えることができる。		
学習成果の評価基準	・入浴・清潔保持に関する基礎的な知識については小テストにて評価する。 ・その人らしい生活を支える入浴・清潔保持の介助の技法を考え実践することができる。 ・自立に向けた入浴・清潔保持の介助について利用者の生活全体から考えレポートすることができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション　生活支援技術の中の「入浴・清潔保持」について学ぶ意義	自分自身の入浴の清潔保持について関心をもつ。授業後配布プリント、ノートを確認する。
2.	入浴・清潔保持の意義と目的①入浴の身体的、精神的、社会的な側面からの入浴・清潔保持の理解	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
3.	入浴・清潔保持の意義と目的②介護を必要とする人にとっての安全で快適な入浴・清潔保持と、介護者の役割	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
4.	入浴・清潔保持清潔保持に関するアセスメント　ＩＣＦの視点からの入浴・清潔保持に関するアセスメント	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく授業後配布プリント、ノートを確認する。。
5.	爽快感・安楽を支える入浴・清潔保持　環境作りや介護の工夫	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
6.	安全、的確な入浴、清潔保持の介助の方法①安全、プライバシーの保護の留意点を理解した一般浴の介護	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
7.	安全、的確な入浴、清潔保持の介助の方法②安全、プライバシーの保護の留意点を理解したシャワー浴の介護	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
8.	安全、的確な入浴、清潔保持の介助の方法③安全、プライバシーの保護の留意点を理解した機械浴の介護	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
9.	安全、的確な入浴、清潔保持の介助の方法④安全、プライバシーの保護の留意点を理解した全身清拭、陰部洗浄の介護	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
10.	安全、的確な入浴、清潔保持の介助の方法⑤安全、プライバシーの保護の留意点を理解した足浴、手浴の介護	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
11.	安全、的確な入浴、清潔保持の介助の方法⑥安全、プライバシーの保護の留意点を理解したベット上での洗髪の介護	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく授業後配布プリント、ノートを確認する。
12.	運動機能が低下してる人の入浴、清潔保持の介助の方法　運動機能を把握した、入浴、清潔保持の方法と留意点	運動機能低下の特徴について調べる。授業後プリント、ノートを確認する。
13.	認知症高齢者の入浴、清潔保持の介助の方法　認知症高齢者の特徴を理解した、入浴、清潔保持の方法と留意点	認知症高齢者、感覚に障害がある人特徴について調べる。授業後プリントを確認する。
14.	入浴、清潔保持の介助における他職種協働　観察の視点の理解とそれぞれの職種の役割と協働	「生生活支援技術Ⅱ」第3章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
15.	まとめ　自立に向けた入浴・清潔保持の介助　その人らしい入浴・清潔保持とは何かについて、生活全体から考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」・「生活支援技術Ⅲ」　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	小テスト（２０%）、実技演習（４０%）、レポート作成（２０%）、授業態度（２０%）　レポートはフィードバック後、返却します。実技演習については、授業内で評価・コメントをフィードバックします。
特記すべき事　項	実技演習には、利用者の生活空間に入ることを意識して臨んで下さい。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。 クラスルームでも質問を受け付けます。

1-18

科　目	生活支援技術Ⅸ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	中村京子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・介護を必要とする人及びその家族等のニーズとらえ、自立に向けた「生活支援」について学ぶ。		
到達目標	・生活を支援することの意義と目的を理解し、その人らしい「生活」とは何かを考える力を養う。 ・その人らしい生活の支援について考えることができる。"		
学習成果の評価基準	定期試験及び授業中の態度（遅刻・居眠り等含む）授業時の課題等にて評価する。授業内にDVD等の感想文を課し、授業内課題の評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション 生活を理解する視点　　生活とは何か・定義・特徴	生活の定義・特徴について考えておく
2.	構成要素・生活経営の考え方	更生要素の理解及びあなたのくらし、私のくらしについての相違点を知る。
3.	生活支援の基本的な考え方 介護福祉士と生活支援	生活の支障に必要な生活支援について
4.	ICFの視点と生活支援	ICFの視点を取りいれた生活支援の方法について
5.	ネットワーキングの意義	生活支援におけるチームアプローチの必要性について
6.	介護職と医療行為	介護職と医療行為の実情と経過について
7.	生活支援と介護予防	介護予防の意義を理解する。介護予防の視点について
8.	レクリエーションの意義	介護予防とレクリエーション活動の役割について
9.	生活支援とリハビリテーション	生活の再構築をリハビリテーションの視点から学ぶ生活支援の目標の設定・評価の視点を調べる
10.	廃用症候群とは	廃用症候群の意味・メカニズム・予防について考える
11.	生活支援と福祉用具の活用	生活の中で福祉用具を選ぶ意味や視点を知っておく
12.	福祉用具の種類と機能	福祉用具の主な種類や機能調べる
13.	「私が考えた福祉用具」作成	実習で出会った利用者のための福祉用具案の作成
14.	発表	「私が考えた福祉用具の発表会
15.	ポイント	振り返り　苦手なところを再度復習

教科書	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅰ」　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　（　15%）　授業内課題　（　15%）　定期試験　（　60%）　授業内発表　（　10%） 各課題については授業内で評価、コメントしフィードバックします。
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	質問は授業終了後、研究室にて受け付けます

1-19

科　目	生活支援技術Ⅹ	開講時期 履修方法	１年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	講義 2単位

授業概要	・睡眠の意義と利用者の心身状況や個別性に応じた臨機応変な安眠のための介護について学ぶ。 ・人生の最終ステージの支援と最期を迎えた人、家族・周囲の人々に対する支援について学び、人間の生と死に関わる介護職と他職種の連携について学ぶ。
到達目標	・睡眠の特徴を捉え支援方法を理解し個々の 対象者に合わせた睡眠について理解する。 ・個々の死生観をとらえ、人間の尊厳に関わる支援を理解する。終末期の対応と、家族へのグリーフケア・グリーフワークの重要性を理解する。
学習成果の評価基準	・睡眠に関する基礎的知識については小テストにて評価する。 ・その人に合わせた心地よい睡眠について理解し発表することができる。 ・終ステージの支援について、最期を迎えた人、家族・周囲の人々に対する支援についてレポートにまとめることができる。 ・個々の死生観をとらえ、人間の尊厳に関わる支援を理解し発表することができる。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション　睡眠の介護・終末期の介護を学ぶ意義	自分の睡眠について関心を持つ。授業後配布プリント、ノートを確認する。
2.	睡眠の意義と目的睡眠のメカニズム　睡眠の重要性と睡眠のメカニズム、高齢者の特徴を知る	「生生活支援技術Ⅱ」第５章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
3.	睡眠に関する利用者のアセスメント ICFの視点にもとづくアセスメント	「生生活支援技術Ⅱ」第５章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
4.	心地よい睡眠　安眠による生活の質の向上	「生生活支援技術Ⅱ」第５章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
5.	利用者の状況に応じた睡眠　感覚・運動・認知・知覚機能低下時の心地よい睡眠の理解	「生生活支援技術Ⅱ」第５章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
6.	睡眠と薬　睡眠薬の作用服薬の介助のポイントの理解	「生生活支援技術Ⅱ」第５章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
7.	心地よい睡眠のための他職種の役割と協働　他職種協働における介護福祉士の役割	「生生活支援第５章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。技術Ⅱ」
8.	終末期における介護の意義、目的　終末期ケアの理念、尊厳の保持や事前意思確認	「生生活支援技術Ⅱ」第６章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
9.	終末期ケアの歴史　ホスピスケアの歴史の理解と延命治療	「生生活支援技術Ⅱ」第６章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
10.	終末期における利用者のアセスメント　ICFの視点にもとづくアセスメント	「生生活支援技術Ⅱ」第６章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
11.	在宅におけるターミナルケア　看取りのための制度を知り、在宅のターミナルケアの留意点	「生生活支援技術Ⅱ」第６章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
12.	施設におけるターミナルケア　看取りのための制度を知り、施設でのターミナルケアの留意点	「生生活支援技術Ⅱ」第６章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
13.	家族への支援、グリーフケア　遺族に対する支援のポイント	「生生活支援技術Ⅱ」第６章を読んでおく授業後配布プリント、ノートを確認する。。
14.	終末期における他職種との連携　医療等他職種の連携の仕方と介護福祉士の役割	「生生活支援技術Ⅱ」第６章を読んでおく。授業後配布プリント、ノートを確認する。
15.	まとめ　生きることを支える終末期ケア　人間の生と死に関わる介護職の役割について考える	前回までの復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅱ」・「生活支援技術Ⅲ」　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	小テスト（２０%）、グループワーク（４０%）、レポート作成（２０%）、授業態度（２０%）　レポートはフィードバック後、返却します。グループワークについては授業内で評価・コメントをフィードバックします。
特記すべき事　項	レポートの提出期限を守ること。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。 クラスルームでも質問を受け付けます

1-20

科　目	介護過程Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・介護過程の意義と目的を学び、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供の必要性を学ぶ。 ・介護過程の思考過程の理解と個々のニーズの的確に捉えるための、情報収集・アセスメントの方法と利用者理解について学ぶ。		
到達目標	・介護過程を学ぶ意義と目的を理解する。 ・介護過程の展開をから利用者のニーズを的確に捉える方法を実践することができる。 ・介護過程を展開し利用者理解について理解する。		
学習成果の評価基準	・介護過程を学ぶ意義と目的について理解し、レポートにおいてまとめることができる。 ・利用者のニーズを理解し、介護過程の様式にまとめることができる。 ・介護過程の展開から、「利用者理解」についてまとめ協働して発表することができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	介護過程とは何か自分たちの身近な問題を事例として理解する	自分の生活において目標について考える。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
2.	介護過程の意義と目的①　介護過程を学ぶ意義を学び、介護過程の展開の意味を考える	予習テキストP. 2-3。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
3.	介護過程の意義と目的②　生活上の問題における目的と目標の意義	予習テキストP. 2-3。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
4.	アセスメントとケアプラン　ケアプラン、アセスメンの意義	予習テキストP. 3-14。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
5.	介護過程の展開「アセスメント」①アセスメントに必要な「事実」の客観的な把握の重要性	予習テキストP. 18-50。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
6.	介護過程の展開「アセスメント」②グループワークを通して「事実」を他者に伝えることを体験する	予習テキストP. 18-50。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
7.	介護過程の展開　「アセスメント」③事実を正確に表現し、正しく他者に伝えることの意義を理解することができる	予習テキストP. 18-50。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
8.	介護過程の展開「アセスメント」④「事実」を捉える時の視点（医学モデルとＩＣＦの違い）	予習テキストP. 18-50。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
9.	介護過程の展開　「アセスメント」⑤「事実」を捉える時の様々な視点	予習テキストP. 18-50。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
10.	介護過程の展開　「アセスメント」⑥実際に展開されている支援の根拠	予習テキストP. 18-50。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
11.	介護過程の展開　「利用者理解」①情報取集でのコミュニケーションの方法、場面の選択の必要性	プリントを確認しておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
12.	介護過程の展開　「利用者理解」②プロセスレコードの使い方	プリントを確認しておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
13.	介護過程の展開　「利用者理解」③高齢者の生きてきた時代と生活背景の理解	プリントを確認しておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
14.	介護過程の展開　「利用者理解」④高齢者の生きてきた時代と生活背景の理解（発表）	プリントを確認しておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
15.	まとめ　客観的・科学的な思考過程について	プリントを確認しておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「介護過程」中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	レポート（30%）、介護過程様式（30%）グループワーク参加（300%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。レポートは評価、フィードバック後に返却します。
特記すべき事項	レポート・介護過程様式等の提出物については時間厳守のこと。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームにても質問を受け付けます。

1-21

科　目	介護過程Ⅱ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	葉山和幸	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	利用者の特性に応じた介護過程の展開について学ぶ		
到達目標	利用者の特性を理解しICFに基づいた介護過程が展開できる。		
学習成果の評価基準	利用者の特性の理解については、授業内課題（発表）にて評価する。 ICFに基づいた介護過程の展開については小テストにて評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション 介護過程とは	学習目標の確認
2.	『関心』をもつとは	人に関心を寄せる、 人に関心を寄せられるについて
3.	暮らしについて	あなたのくらし、私のくらしについての相違点を知る
4.	暮らしについて 時代の違い、年代別のくらし①　（年表作成）昭和初期～	時代背景・年代別のくらしについて調べる
5.	暮らしについて 時代の違い、年代別のくらし②　（年表作成）	時代背景の影響から・年代別のくらしが成り立つことを知る
6.	年代別の青春時代　（年表作成）	時代背景を調べる
7.	暮らしについて 時代の違い、年代別のくらし③　（年表作成）	時代別の暮らしについて調べる
8.	自己理解・他者理解 価値観の違い	自分と他者を観察する
9.	高齢者の生活①	高齢社会の現状、在宅生活について理解する
10.	高齢者の生活②	高齢者の生活を支える制度と社会資源について理解する
11.	障害を持つ人の生活①	障害者をとりまく社会の現状、在宅での生活を理解する
12.	障害を持つ人の生活②	障害を持つ人の生活課題について理解する
13.	生活支援の考え方と必要性・関連図の書き方	事例をもとに生活支援の考え方と関連図を描いてみる
14.	プロセスレコード	プロセスレコードを通し、自分自身を振り返る
15.	まとめ及び評価	最終評価とする

教科書	新・介護福祉士養成講座　「介護過程」　中央法規福祉養成講座
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（10%）　小テスト（30%）　授業内課題（50%） 小テスト、授業内課題については授業内にてフィードバックします。
特記すべき事項	介護福祉士（7年）
質問・相談等の受付	授業後、学修支援室にて受け付けます。

科　目	介護過程Ⅲ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	介護過程における、「情報収集」「アセスメント」「計画立案」「実施」「評価」という一連のプロセスを学習し、介護過程を展開する能力を身につける。介護実習における自己の介護実践を振り返ることで、介護過程を客観的に評価するという作業を展開する。		
到達目標	1. 事例を通して、介護過程の展開のプロセスや方法が理解できる。 2. 自己の介護実践を振り返り、客観的な実践の評価ができる。 3. 介護実践報告書を作成できる。		
学習成果の評価基準	報告書完成に向け、ゴールへの見通しを立て、時間・スケジュールの管理ができたか。 自己学習に取り組む姿勢。 介護実践について、客観的な視点で考察し、論じているか。 事例展開および結果について、課題を見いだせているか。 文章表現、テーマと報告書内容に相違がないか。　　このような観点から評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	介護実践の振り返り	介護過程の展開についての振り返り
2.	オリエンテーション　介護実践報告書作成に向けて テーマ作成　参考資料・文献検索	配布資料
3.	テーマ作成　参考資料・文献検索 報告書の構成を考える	報告書作成に向けた自己学習
4.	介護過程の展開　情報収集についての考察	報告書作成に向けた自己学習
5.	介護過程の展開　アセスメントについての考察①	報告書作成に向けた自己学習
6.	介護過程の展開　アセスメントについての考察②	報告書作成に向けた自己学習
7.	介護過程の展開　アセスメントについての考察③	報告書作成に向けた自己学習
8.	介護過程の展開　課題の抽出についての考察	報告書作成に向けた自己学習
9.	介護過程の展開　計画立案についての考察	報告書作成に向けた自己学習
10.	介護過程の展開　実施の結果についての考察①	報告書作成に向けた自己学習
11.	介護過程の展開　実施の結果についての考察②	報告書作成に向けた自己学習
12.	介護過程の展開における評価①	報告書作成に向けた自己学習
13.	介護過程の展開における評価②	報告書作成に向けた自己学習
14.	介護過程の展開における利用者理解についての考察	報告書作成に向けた自己学習
15.	介護過程の展開における利用者理解についての考察	報告書作成に向けた自己学習

教科書	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程　中央法規出版
参考書	なし
学習成果の評価方法	学習態度（40%）、報告書内容（60%） 毎回、教員より個別指導を実施する。
特記すべき事項	実務経験　看護師（11年）、保健師（3年）
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室

1-23

科　目	介護過程Ⅳ	開講時期	1年後期
		履修方法	必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態	演習
		単位数	1単位

授業概要	既習学習である「介護」「人間と社会」「こころとからだのしくみ」領域の知識と技術を統合し、介護過程を展開する。一連のプロセスを通し、対象の個別性を捉え、身体面・精神面・社会面等、様々な角度から配慮し介護を考えることのできる思考過程を養う。
到達目標	1. 介護過程の意義と目的を理解し、対象の特性に応じた介護過程の展開ができる。 2. 介護過程の展開を通して、自身の実践した介護を振り返り、よりよい介護の追求ができる。 3. 介護実践報告発表に向け、プレゼンの準備ができる。
学習成果の評価基準	プレゼン資料の作成に向け、ゴールへの見通しを立て、時間・スケジュール管理ができたか。 自己学習に取り組む姿勢。 人が見て分かりやすい、報告書の全体像が伝わるような資料の工夫ができているか。 他者の報告書やプレゼンも含めた題材から、介護に対する自分の考えを述べているか。 報告書作成から発表資料作成に至る過程の自己課題を見いだせているか。　　このような観点から評価する。

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション　介護実践報告書発表に向けて	報告書の準備
2.	介護実践報告書発表資料作成①	パワーポイントの構想を考える
3.	介護実践報告書発表資料作成②	パワーポイント完成に向けた自己学習
4.	介護実践報告書発表資料作成③	パワーポイント完成に向けた自己学習
5.	介護実践報告書発表資料作成④	パワーポイント完成に向けた自己学習
6.	介護実践報告書発表資料作成⑤	パワーポイント完成に向けた自己学習
7.	介護実践報告書発表資料作成⑥	パワーポイント完成に向けた自己学習
8.	プレゼン原稿作成①	発表の構想を考える
9.	プレゼン原稿作成②	プレゼン原稿作成に向けた自己学習
10.	プレゼン原稿作成③	プレゼン原稿作成に向けた自己学習
11.	プレゼン練習①	プレゼンの準備
12.	プレゼン練習②	プレゼンの準備
13.	プレゼン練習③	プレゼンの準備
14.	報告書発表の準備	他者の発表レポートを読み込み、ディスカッションの準備
15.	ディスカッション　介護実践を科学的な視点で論じるためには	ディスカッションの準備

教科書	最新　介護福祉士養成講座9　介護過程　中央法規出版
参考書	なし
学習成果の評価方法	学習態度（40%）、発表資料内容（60%） 毎回、教員より個別指導を実施する。
特記すべき事項	実務経験　看護師（11年）、保健師（3年）
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室

1-24

科　目	介護過程Ⅴ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・介護過程の実践的展開から個々のニーズを把握し、計画的に介護を実践・評価していく科学的な問題解決方法であることを学ぶ。 ・他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の実践的な介護過程の展開ができる能力を養う。		
到達目標	・他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の実践的な介護過程の展開ができる。 ・介護福祉士の視点から、自立に向けた介護過程の実際的展開ができる。		
学習成果の評価基準	・それぞれの事例について、介護過程実践について発表し共有することができる。 ・自立に向けた介護過程の実践について介護福祉士の専門性をレポートすることができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	オリエンテーション　授業の方法、目標の確認	実習時の記録をふりかえっておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
2.	「事例Ａ」の介護過程の展開（1）	事例Ａを読んでくる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
3.	「事例Ａ」の介護過程の展開（2）	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
4.	「事例Ａ」の介護過程の展開（3）	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
5.	「事例Ａ」の介護過程の展開（4）	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
6.	「事例Ａ」の介護過程の展開（5）	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
7.	「事例Ａ」の介護過程の展開（6）	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
8.	「事例Ｂ」の介護過程の展開（1）	事例Bを読んでくる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
9.	「事例Ｂ」の介護過程の展開（2）	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
10.	「事例Ｂ」の介護過程の展開（3）	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
11.	「事例Ｂ」の介護過程の展開（4）	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
12.	「事例Ｂ」の介護過程の展開（5）	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
13.	「事例Ｂ」の介護過程の展開（6）	事例の整理をしておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
14.	介護過程実践報告会（1）	レジュメの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
15.	まとめ　介護過程実践報告会　振り返り	パワーポイントの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「介護過程」　中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（１０％　）レポート（２０％）授業内発表（４０％）　実践報告会レジュメ・パワーポイント（３０％）で総合的に評価する。レポートは評価、フィードバック後に返却する。授業内での評価は、コメントにてフィードバックバックします。
特記すべき事項	レポート・実践報告会レジュメ・パワーポイント等の提出期限を守ること。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。クラスルームにても質問を受け付けます。

1-25

科　目	介護総合演習Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	森永牧子・小川理紗	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・学内で得た基本的な知識、技術を、実践するための具体的な方法を学び、理論から実践へ展開する。 ・事前オリエンテーションや事後指導において、施設の理解や学内で学んだ知識、技術から実践への展開について学ぶ。 ・地域について関心をもちおおたにカフェ・地域デイサービスに参加する		
到達目標	・介護実習の意義と目的を理解し、実習の目標や課題のを明確にし介護実習に臨むことができる。 ・介護実習で体験したことを多角的に捉え直し、他者に伝えることができる。 ・おおたにカフェ・地域デイサービスを実施・参加し、地域の課題について理解できる。		
学習成果の評価基準	・介護実習の意義と目的を理解し、実習の目標や課題を明確にして目標確認シートを作成することができる。 ・実習の体験をグループワークに参加し協働して表現することができる。 ・「地域の課題」についてレポートにおいてまとめることができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	介護実習の意義と目的	介護実習のマニュアルP１を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
2.	利用者の個別性の理解	明治、大正、昭和の時代の背景や歴史について調べておく。授業後リントを確認する。
3.	介護活動の場と介護の特性多様な介護ニーズに対する介護サービスの理解	介護施設の種類について調べておく。授業後、配布プリント・ノートを確認する。
4.	介護保険入所施設(高齢者施設）、障がい者施設の法的根拠、特徴	テキストP. 86-99、119-131を読んでおく。授業後プリントを確認する。
5.	訪問介護事業所、通所施設等の在宅を支援する事業所の法的根拠、特徴	テキストP. 74-85を読んでおく。授業後、配布プリント・ノートを確認する。
6.	小規模多機能施設、グループホーム等の地域密着型の事業所の法的根拠、特徴	テキストP. 100-118を読んでおく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
7.	介護実習の記録記録の意義と目的	介護実習のマニュアルP. 4-13 テキストP. 46-66。授業後プリントを確認する。
8.	介護実習Ⅰ－１，２オリエンテーション①ねらいと目的	介護実習のマニュアル資料。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
9.	介護実習Ⅰ－１，２オリエンテーション②概要と打ち合わせ	介護実習のマニュアル、配布資授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。料。
10.	実習事後指導　介護実習Ⅰ－１．２実習報告会	実習中の記録、グループワークの資料をまとめておく。授業後プリントを確認する。
11.	地域における生活支援の実態　資源や文化、歴史を学び地域について知る	実習中の記録を整理しておく。授業後、配布プリント・ノートを確認する。
12.	「おおたにカフェ」を企画・運営し、地域における介護福祉士の役割を理解する	実習中の記録の整理。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
13.	介護実習Ⅰ－３オリエンテーション	介護実習のマニュアルを確認しておく。授業後配布プリント・ノートを確認する。
14.	介護実習Ⅰ－３実習報告会	実習中の記録を整理しておく。授業後グループワークのまとめ資料を確認する。
15.	まとめ　実習をとおして自己の学習課題を明確にする	実習・おおたにカフェでの学びを振り返っておく。授業後、配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」　中央法規　「専攻科介護実習マニュアル」
参考書	
学習成果の評価方法	レポート提出（50%）、グループワーク参加（40%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。レポートは評価、コメントを記入フィードバックしたうえで返却します。
特記すべき事項	記録等の提出物については時間厳守のこと。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きに来ること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とする。 クラスルームでも質問を受け付けます。

1-26

科　目	介護総合演習Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	森永牧子・小川理紗	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	・介護過程の実践を通じて、介護福祉士の役割と、自立支援に向けた多職種協働の意義と役割を理解する。 ・介護過程の実践と事後指導により、介護過程の重要性と、介護福祉士の専門性について学ぶ。 ・地域における介護福祉士の役割を理解する。		
到達目標	・介護過程の実践と評価を通じて、介護福祉士に求められる知識、技術を包括的に整理し、理解することができるとともに、理論的に思考することができ、自分の考えを説明し・表現することができる。 ・地域における介護福祉士の役割を理解し、おおたにカフェに参加することができる。		
学習成果の評価基準	・実習報告会において実践をふまえ、介護福祉士に求められるものをグループでまとめ発表することができる。 ・「地域における介護福祉士の役割」を理解しレポートにまとめることができる。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	地域における生活支援の実践①介護福祉士の役割について理解する	地域の特色をまとめる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
2.	地域における生活支援の実践②地域のニーズを考えた「おおたにカフェ」の運営	地域のニーズを考える。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
3.	介護実習Ⅱ－1オリエンテーション①　実習のねらいと目的を理解し実習計画を立てる	実習マニュアルを確認する。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
4.	介護実習Ⅱ－1実習事後指導　個人で振り返り、まとめる	実習記録等をまとめる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
5.	介護実習Ⅱ－1実習報告会①　実習施設ごとにねらいと目的に沿ってまとめる	レジュメの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
6.	介護実習Ⅱ－1実習報告会②　実習施設ごとに発表する	パワーポイントの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
7.	介護過程の実践①　介護実習で介護過程の展開を行う意義や目的を理解する	介護過程の復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
8.	介護過程の実践②　情報収集、アセスメント、立案、実施、評価について理解する	介護過程の復習。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
9.	介護過程の実践③　記録様式、内容、方法の確認	記録用紙等の確認。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
10.	介護実習Ⅱ－2オリエンテーション①　実習のねらいと目的を理解し実習計画を立てる	実習マニュアルの確認。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
11.	介護実習Ⅱ－2オリエンテーション②　実習施設の概要を把握する	実習マニュアルの確認。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
12.	介護実習Ⅱ－2実習事後指導　実習を個人で振り返り、まとめる	実習記録等をまとめる。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
13.	介護実習Ⅱ－2　実習報告会①　実習施設ごとにねらいと目的に沿ってまとめる	レジュメの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
14.	介護実習Ⅱ－2実習報告会②　実習施設ごとに発表する	パワーポイントの準備。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。
15.	まとめ　介護福祉士として大切にしたいこと　「私の目指す介護福祉士」について目標をたてる	これまでの学習を振り返っておく。授業後、当日の配布プリント・ノートを確認する。

教科書	新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」　中央法規　「専攻科介護実習マニュアル」
参考書	
学習成果の評価方法	レポート提出（50%）グループワーク参加（40%）受講態度（10%）で総合的に評価する。レポートはフィードバックしたうえで返却します。
特記すべき事項	記録等の提出物については時間厳守のこと。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	質問がある場合は授業後に直接聞きにくること。内容により即答、次回持越し、研究室対応とします。 クラスルームでも質問を受け付けます。

1-27

科　目	介護実習	開講時期 履修方法	1年通年 必修、専門科目
担当者	森永牧子・小川理紗	授業形態 単位数	実習 5単位

授業概要	・学内の講義、演習を通して学んだ理論と技術を統合し、介護現場にて実践する。 ・多様な介護現場において利用者理解を中心に、コミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術について学ぶ。 ・利用者の自立支援に向けた専門職としての実践について学ぶ。
到達目標	・利用者への理解を深めるためのコミュニケーション能力を身につける。 ・実習施設の概要や関連職種との連携を理解する。介護実習記録や介護過程の展開内容を適切に記述できる。 ・生活者として利用者をとらえ、それを支える介護福祉士の役割について理解できる。
学習成果の評価基準	・利用者の個別性の理解について、実習中の事例にもとずき実習記録にまとめることができる。 ・介護過程の展開について、介護過程様式にまとめ、発表することができる。 ・実習を通して学んだ介護福祉士の役割についてレポートを作成することができる。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
●介護実習Ⅰ－１・２・３（80時間） 実施施設： 老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模多機能、通所介護、訪問介護、障害者支援施設など 学修内容： 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、さまざまな生活の場にける個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じ、介護福祉士の役割について実践をとおして学ぶ。 目標： 利用者の尊厳を護り個別性を理解し、 その人らしい生活支援を学ぶ。 介護サービスが必要な利用者の様々な場での生活を理解する。 利用者の個別性を理解し、コミュニケーションを 図ることができる。 チームケアの一員としての介護職の役割や他職種との連携を理解する。 ●介護実習Ⅱ－１・２（160時間） 実施施設： 老人保健施設、特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模多機能、通所介護、訪問介護、障害者支援施設など（実習指導者在籍施設） 学修内容： 個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供となる実践力を学ぶ。 目標： ＩＣＦを活用したアセスメント方法で、利用者のニーズを明確にする。 担当利用者の介護過程を展開（アセスメント、ニーズの把握、介護計画の立案、実施、 評価・考察）を行い、根拠（エビデンス）に基づいた個別ケアを実践する。 利用者本位の介護サービスを提供するために、他職種共同による体制であることを理解する。 人権擁護、職業倫理を身につけ、自らの介護観を構築する。	予習 ・実習前までに学んだ内容を再度見直し確認する。 ・実習施設の概要等を調べる ・実習に対する自分の目標を明確にする。 復習 ・介護実習で学び体験したことを振り返り実習のまとめと、記録類の整理をする。 ・まとめた記録類とともに自己評価を記入する。 ・介護過程の展開を振り返り「介護過実践報告会」に備える。

教科書	新・介護福祉士養成講座「介護総合演習・介護実習」　中央法規　「専攻科介護実習マニュアル」
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度・巡回指導（１０%）授業内課題・実習記録・介護過程様式（２０%）実習評価表（５０%）レポート（２０%）で総合的に評価します。
特記すべき事　項	記録物の提出期限を厳守すること。利用者の生活の場での実践にふさわしい態度で臨んで下さい。 担当者は介護福祉士として5年の実務経験を有しています。
質問・相談等の受付	実習中の相談は前もって連絡を受け、実習巡回時に対応します。

科　目	発達と老化の理解	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人間の成長発達の過程における老化を理解し、老化が及ぼす身体的・心理的・社会的変化に関する基礎的な知識を習得する。 また、老年期の課題を総合的に学ぶことで、高齢者の尊厳を守り、自立を促す支援を考える。		
到達目標	1. 人間の成長発達・発達課題を理解し、老化に伴う様々な変化、日常生活への影響を理解する。 2. 老年期の発達課題や疾患の特徴を理解し、日常生活援助における留意点を述べることができる。		
学習成果の評価基準	目標に到達する過程で、小テストや課題レポートを盛り込み、授業に対する理解度や復習の状況を確認する。 また授業の中では、ディスカッションで様々な意見に触れあう機会を設け、グループ学習における積極性・学習態度についても評価とする。 授業終了後は、定期試験を実施し、総合的に評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	人間の成長と発達①	教科書　第1章、配布資料
2.	人間の成長と発達②	教科書　第1章、配布資料
3.	人間の発達段階と発達課題ー発達理論	教科書　第2章、配布資料
4.	老年期の特徴と発達課題①	教科書　第3章、配布資料
5.	老年期の特徴と発達課題②	教科書　第3章、配布資料
6.	老化に伴う身体的変化と生活への影響	教科書　第4章、配布資料
7.	老化に伴う心理的変化と生活への影響	教科書　第4章、配布資料
8.	老化に伴う社会的変化と生活への影響	教科書　第4章、配布資料
9.	高齢者に多い症状・疾患の特徴	教科書　第5章、配布資料
10.	高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点①	教科書　第5章、配布資料
11.	高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点②	教科書　第5章、配布資料
12.	高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点③	教科書　第5章、配布資料
13.	高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点④	教科書　第5章、配布資料
14.	高齢者に多い症状・疾患と生活上の留意点⑤	教科書　第5章、配布資料
15.	保健医療職との連携	教科書　第5章、配布資料

教科書	最新　介護福祉士養成講座12　発達と老化の理解　中央法規出版
参考書	なし
学習成果の評価方法	小テスト・課題レポート（30%）、学習態度（10%）、定期試験（60%） その都度教員によるフィードバックを実施する。
特記すべき事項	実務経験　看護師（11年）、保健師（3年）
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室

1-29

科　目	認知症の理解Ⅰ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	城戸由香里	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	認知症の基礎的知識、認知症患者の行動パターン、意思表示困難なことを把握し、被介護者の家族のみならず周囲の環境への配慮について、学ぶ。		
到達目標	認知症の基礎的知識の習得とそれに基づく専門的介護の視点を持つことが出来る。		
学習成果の評価基準	認知症の基礎的知識の習得については、授業内の課題にて評価する。 専門的な介護の視点にyついては、レポートにおいて評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	認知症を取り巻く状況①（認知症ケアの歴史）	テキストにて予習・復習
2.	認知症を取り巻く状況②（認知症ケアの理念）	テキストにて予習・復習
3.	認知症を取り巻く状況③（認知症高齢者の現状と今後）	テキストにて予習・復習
4.	医学的側面から見た認知症の基礎①（認知症の診断方法）	テキストにて予習・復習
5.	医学的側面から見た認知症の基礎②認知症による障害（中核症状とBPSD）	テキストにて予習・復習
6.	医学的側面から見た認知症の基礎③認知症と間違えられやすい症状（うつ病、せん妄）	テキストにて予習・復習
7.	医学的側面から見た認知症の基礎④認知症の原因となる主な病気の症状と特徴（アルツハイマー型認知症）	テキストにて予習・復習
8.	医学的側面から見た認知症の基礎⑤認知症の原因となる主な病気の症状と特徴（アルツハイマー型認知症）	テキストにて予習・復習
9.	医学的側面から見た認知症の基礎⑥認知症の原因となる主な病気の症状と特徴（脳血管型認知症）	テキストにて予習・復習
10.	医学的側面から見た認知症の基礎⑦認知症の原因となる主な病気の症状と特徴（レビー小体型認知症）	テキストにて予習・復習
11.	医学的側面から見た認知症の基礎⑧認知症の原因となる主な病気の症状と特徴（前頭側頭型認知症）	テキストにて予習・復習
12.	若年性認知症	テキストにて予習・復習
13.	認知症の予防	テキストにて予習・復習
14.	認知症の対応	総復習
15.	まとめ	総復習

教科書	介護福祉士養成講座編集委員会編集「新・介護福祉士養成講座　認知症の理解」中央法規
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（１５%）　授業内レポート（１５%）　授業内課題（７０%） 課題、レポートについては授業内にフィードバックします。
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	授業後、学修支援室にて受け付けます。

科　目	認知症の理解Ⅱ	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	中村京子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	認知症Ⅰで学習した基礎知識を基に認知症の人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を学ぶ。		
到達目標	認知症の生活の理解及び認知症が抱える問題を社会や地域と関連づけて理解し、認知症本人及び家族への支援を身につける。		
学習成果の評価基準	定期試験及び授業中の態度（遅刻・居眠り等含む）授業時の課題等にて評価する。　授業中、DVD等の感想を求め、授業内課題の評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	″4章：認知症の人の生活理解 ・認知機能の変化が生活に及ぼす影響″	″（テキストで予習） ・認知機能の変化につて″
2.	・環境の力	認知症の人の行動と環境との関係について
3.	認知症になっても生活を続けるということは	認知症になっての生活について
4.	・若年性認知症の人の生活の理解と支援	若年性認知症について
5.	″5章：認知症の人への介護 ・認知症へのかかわりの基本″	援助者としてのかかわりかたについて
6.	・認知症への気づき	介護職として気付いたときの対応方法を考えておく
7.	・認知症の人の介護過程	認知症の人に対する介護過程の展開を調べる
8.	・認知症の進行に応じた介護	認知症の進行に応じたその特性
9.	・人が生きることを支えるということ	生きる意味を知り、介護職の役割を調べる
10.	″6章：地域の力を活かす ・地域におけるサポート体制″	地域に必要な資源・サポート体制について調べる
11.	・チームアプローチ	他職種が共同して認知症の人を支えるということは
12.	″7章：家族の力を活かす ・介護者自身の体験″	おかしいなと感じたときの本人の気持ちを知り、
13.	・家族へのレスパイとケア	家族介護者の大変さを調べる
14.	・家族へのエンパワメント	家族介護者の大変さを調べる
15.	・認知症に関する制度・関係機関	制度について

教科書	新・介護福祉養成講座　「認知症の理解と介護」　中央法規新
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度　（ 15 %）　授業内課題　（ 15 %）　定期試験　（ 70 %） 各課題については授業内で評価、コメントしフィードバックします。
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	質問は授業終了後、研究室にて受け付けます

1-31

科　目	障害の理解	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	障害者福祉に関する基礎的知識を学び、障害のある人の身心の状況を理解し、地域や家族も含めた障害のある人への生活支援について学習する。 「完全参加と平等」という考えの基、ノーマライゼーションやソーシャルインクルージョンという理念が普及してきた。そのような中で、全ての人が人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を支える介護者としての役割を考え、障害者福祉における自己の価値観や介護観を模索する。		
到達目標	1. 障害者福祉に関する制度について理解する。 2. 障害別の特性を理解し、その特性を考慮した支援を考え述べることができる。 3. 地域における、障害のある人および家族への支援について、自己の考えを述べることができる。		
学習成果の評価基準	目標に到達する過程で、小テストや課題レポートを盛り込み、授業に対する理解度や復習の状況を確認する。 また授業の中では、ディスカッションで様々な意見に触れあう機会を設け、グループ学習における積極性・学習態度についても評価とする。 授業終了後は、定期試験を実施し、総合的に評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	障害の概念	教科書　第1章、配布資料
2.	障害者福祉の基本理念	教科書　第1章、配布資料
3.	障害者福祉制度と介護保険制度	教科書　第1章、配布資料
4.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　障害のある人の心理	教科書　第2章、配布資料
5.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　運動機能障害	教科書　第2章、配布資料
6.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害	教科書　第2章、配布資料
7.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　内部障害①	教科書　第2章、配布資料
8.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　内部障害②	教科書　第2章、配布資料
9.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　重症心身障害	教科書　第2章、配布資料
10.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　知的障害、精神障害、発達障害	教科書　第3章、配布資料
11.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　高次機能障害	教科書　第3章、配布資料
12.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　難病①	教科書　第3章、配布資料
13.	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援　難病②	教科書　第3章、配布資料
14.	障害者の地域生活における支援　多職種連携と協働	教科書　第4章、配布資料
15.	障害のある人の家族への支援	教科書　第5章、配布資料

教科書	最新　介護福祉士養成講座14　障害の理解　中央法規出版
参考書	なし
学習成果の評価方法	小テスト・課題レポート（30%）、学習態度（10%）、定期試験（60%） その都度教員によるフィードバックを実施する。
特記すべき事項	実務経験　看護師（11年）、保健師（3年）
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室

科　目	からだのしくみ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	介護実践の根拠となる基礎知識として、解剖生理を基に人間の身体構造及び機能について学習する。また、身体機能低下や障害が生活に及ぼす影響について学習する。		
到達目標	1. 人体の解剖学的構造・機能について理解できる。 2. 心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響を理解し、変化に対応するための観察点を述べることができる。 3. 疾病発生のメカニズムを学習することで、健康を意識し、予防の視点を考慮した介護実践について考えることができる。		
学習成果の評価基準	目標に到達する過程で、小テストや課題レポートを盛り込み、授業に対する理解度や復習の状況を確認する。 また授業の中では、ディスカッションで様々な意見に触れあう機会を設け、グループ学習における積極性・学習態度についても評価とする。 授業終了後は、定期試験を実施し、総合的に評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	健康とは何か	教科書　序章、配布資料
2.	人をつくる細胞・生命維持と恒常性のしくみ、身体の部位	教科書　第2章、配布資料
3.	脳・神経系、感覚器のしくみ	教科書　第2章、配布資料
4.	呼吸器・循環器系のしくみ	教科書　第2章、配布資料
5.	消化器・栄養吸収のしくみ	教科書　第2章、配布資料
6.	腎・泌尿器のしくみ	教科書　第2章、配布資料
7.	骨・関節、筋肉のしくみ	教科書　第2章、配布資料
8.	内分泌・生殖器のしくみ	教科書　第2章、配布資料
9.	「移動」に関連したこころとからだのしくみ	教科書　第3章、配布資料
10.	「身じたく」に関連したこころとからだのしくみ	教科書　第4章、配布資料
11.	「食事」に関連したこころとからだのしくみ	教科書　第5章、配布資料
12.	「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ	教科書　第6章、配布資料
13.	「排泄」に関連したこころとからだのしくみ	教科書　第7章、配布資料
14.	「休憩・睡眠」に関連したこころとからだのしくみ	教科書　第8章、配布資料
15.	死にゆく人のこころとからだのしくみ	教科書　第9章、配布資料

教科書	最新　介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ　中央法規出版
参考書	なし
学習成果の評価方法	小テスト・課題レポート（30%）、学習態度（10%）、定期試験（60%） その都度教員によるフィードバックを実施する。
特記すべき事項	実務経験　看護師（11年）、保健師（3年）
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室

1-33

科　目	こころのしくみ	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	徳本　祥	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	1．記憶、知能、学習、感情など認知機能の働きと、それらと脳の機能との関連を学ぶ。 2．認知症ケアや終末期ケアにおける利用者とその家族の心理を学ぶ		
到達目標	1．介護現場に於いて、脳の機能障がい→認知機能（記憶、知能、情動）の障がい→精神症状・問題行動という一連の流れをできるようにする。 2．介護現場で終末期を迎える利用者とその家族の心理を理解できるようにする。		
学習成果の評価基準	毎回講義内容をノートする 中間試験、期末試験で6割以上得点する		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	授業のねらい、授業の進め方、そして、評価	
2.	健康とは：心身相関	「心身相関」、「人間の尊厳」の意味を調べる
3.	脳と心(1)	脳地図を見て脳の各部位の名称を調べる
4.	脳と心(2)	脳の各部位の機能を理解する
5.	欲求と動機付け	「自己実現」の意味を調べる
6.	記憶のしくみ	認知症者の記憶障害について調べる
7.	知能のしくみ	認知症者の知能障害について調べる
8.	学習のしくみ(1)	「行動変容」の具体例を考える
9.	学習のしくみ(2)	「認知構造変容」の具体例を考える
10.	感情と情動にしくみ	認知症者の情動障がいについて調べる
11.	防衛機制	我々の日常生活に於いて用いられる「防衛機制」を調べる
12.	ターミナルケア	終末期の患者とその家族へのケアの事例を探す
13.	死の受容	終末期に自らの死を受け容れる過程の事例を探す
14.	グリーフケア	愛する人の死を受容する過程の事例を探す
15.	まとめ	

教科書	
参考書	毎回プリント資料配付
学習成果の評価方法	受講態度（20%）小テスト（40%）定期試験（40%） 小テスト、定期試験については、コメントにてフィードバックします。
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	授業終了後、学修支援室にて受け付けます。

1-3K

科　目	医療的ケア	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	小川理紗・中村京子	授業形態 単位数	講義 3単位

授業概要	医療的ケアを行うために必要な基礎知識及び方法について学ぶ。また、医療チームとの連携のもと、医療的ケアを安全かつ適切に実施するための知識及び技術を習得する。
到達目標	1. 介護福祉士が医療的ケアを実施する背景について理解する。 2. 医療的ケアにおける、安全管理・感染予防・健康状態の把握・急変時の対応について理解できる。 3. 医療的ケアに関するからだのしくみ、技術を理解できる。 4. 喀痰吸引に関わる器官の構造・機能を理解したうえで、喀痰吸引を安全に実施できる。 5. 経管栄養に関わる器官の構造・機能を理解したうえで、経管栄養を安全に実施できる。
学習成果の評価基準	この科目では、技術の習得が最終目標となるため、筆記試験と実技試験を実施し評価する。 単元の節目では、小テストや課題を盛り込み、授業に対する理解度を確認していく。 また、演習においては確実な手技を獲得することを求めるため、積極的に学ぼうとする態度や演習へのレディネスも評価とする。

授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
第1回　医療的ケアの目的、制度について（第1章、第1節） 第2回　医療行為と医療倫理（第1章、第1節） 第3回　安全な療養生活①（第1章、第2節） 第4回　安全な療養生活②（第1章、第2節） 第5回　清潔保持と感染予防（第1章、第3節） 第6回　標準予防策（第1章、第3節） 第7回　健康状態の把握（第1章、第4節） 第8回　緊急時の対応（第1章、第4節） 第9回　呼吸のしくみ、呼吸の異常（第2章） 第10回　喀痰吸引①　口腔・鼻腔（第2章） 第11回　喀痰吸引②　気管カニューレ（第2章） 第12回　喀痰吸引③　子どもの吸引（第2章） 第13回　呼吸器感染予防（第2章） 第14回　喀痰吸引における安全管理（第2章） 第15回　吸引による事故発生時の対応（第2章） 第16回　喀痰吸引の実施手順①（第2章） 第17回　喀痰吸引の実施手順②（第2章） 第18回　喀痰吸引の実施手順③（第2章） 第19回　喀痰吸引に伴うケア、報告・記録（第2章） 第20回　喀痰吸引の振り返り①（第2章） 第21回　喀痰吸引の振り返り②（第2章） 第22回　消化器系のしくみ、嚥下のしくみ（第3章） 第23回　経管栄養法①　経鼻経管栄養（第3章） 第24回　経管栄養法②　胃ろう・腸瘻経管栄養（第3章） 第25回　経管栄養法③　子どもの経管栄養（第3章） 第26回　経管栄養に関する感染予防（第3章） 第27回　経管栄養における安全管理（第3章） 第28回　経管栄養による事故発生時の対応（第3章） 第29回　経管栄養の実施手順①（第3章） 第30回　経管栄養の実施手順②（第3章） 第31回　経管栄養の実施手順③（第3章） 第32回　経管栄養に必要なケア、記録・報告（第3章） 第33回　経管栄養の振り返り（第3章） 第34回　経管栄養の振り返り（第3章） ※全過程終了後、演習の時間を設ける。 口腔内喀痰吸引・鼻腔内喀痰吸引・気管カニューレ内喀痰吸引　各5回以上 胃ろう・腸瘻による経管栄養、経鼻経管栄養　各5回以上 救急蘇生法　1回以上実施する必要がある。	左記提示章の予習及び、講義時配布の資料も参考に、技術をイメージするための自己学習。 復習をし、演習ができるように準備する。

教科書	最新　介護福祉士養成講座15　医療的ケア　中央法規出版
参考書	なし
学習成果の評価方法	受講態度（20%）、実技試験（80%） その都度教員によるフィードバックを実施する。
特記すべき事項	実務経験　小川：看護師（11年）、保健師（3年） 中村：看護師（5年）、保健師（3年）
質問・相談等の受付	授業内もしくは研究室

1-85

科　目	人間学Ａ	開講時期 履修方法	１年前期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	「人間学」は、御命日勤行と人間学座談で構成され、「本学の願い」に触れることを通して人間を学ぶ。 御命日勤行の内容は、勤行・仏教讃歌・講話・感話で、講話は教科書をもとに担当教員が、感話は担当クラスの学生が行う。いずれもテーマは「共に生きる」。（講話のテーマは「本学の願い」、感話のテーマは、「出遇い」、または、「生きる」。）人間学座談は、御命日勤行での講話・感話を聞いて、自分自身が感じたこと、考えたことを少人数のクラスで語り合う。		
到達目標	「本学の願い」に触れ、人間としてどう生きるのか尋ねることができる。 講話や感話から他者の意見を聞き、自分自身の考えを表現できる。		
学習成果の評価基準	「人間学」を通して感じたこと、考えたことを「人間学ノート」に記述する。「人間学」への取り組み姿勢（聞く、書く、語る）を受講態度の評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	人間学オリエンテーション 人間学とは・仏教讃歌講義・勤行練習	「授業要覧」を読む
2.	御命日勤行（４月）「本学の願い」に学ぶ① 講話：教務部長 感話クラス：１年（専攻・仏）　２年（仏・教職員）	教科書、人間学ノートを読む
3.	人間学座談①	御命日勤行を振り返る
4.	御命日勤行（５月）「本学の願い」に学ぶ② 講話：表現学科 感話クラス：１年（福祉・M）　２年（福祉・M）	教科書、人間学ノートを読む
5.	人間学座談②	御命日勤行を振り返る
6.	御命日勤行（６月）「本学の願い」に学ぶ③ 講話：福祉学科 感話クラス：１年（K・演）　２年（K・演）	教科書、人間学ノートを読む
7.	人間学座談③	御命日勤行を振り返る
8.	御命日勤行（７月）「本学の願い」に学ぶ④ 講話：仏教学科 感話クラス：１年（J・I）　２年（J・I）	教科書、人間学ノートを読む
9.	人間学座談④	御命日勤行を振り返る
10.		
11.		
12.		
13.		
14.		
15.		

教科書	『釈尊 生涯と教え』（東本願寺出版）・「人間学ノート」
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（２０％）人間学ノート提出（８０％） 提出された人間学ノートにコメントし、フィードバックします。
特記すべき事項	人間学は全学を学年ごとに二分割し実施する。
質問・相談等の受付	

1-36

科　目	人間学B	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	「人間学」は、御命日勤行と人間学座談で構成され、「本学の願い」に触れることを通して人間を学ぶ。 御命日勤行の内容は、勤行・仏教讃歌・講話・感話で、講話は教科書をもとに担当教員が、感話は担当クラスの学生が行う。いずれもテーマは「共に生きる」。 （講話のテーマは「本学の願い」、感話のテーマは、「出遇い」、または、「生きる」。）人間学座談は、御命日勤行での講話・感話を聞いて、自分自身が感じたこと、考えたことを少人数のクラスで語り合う。		
到達目標	「本学の願い」に触れ、人間としてどう生きるのか尋ねることができる。 講話や感話から他者の意見を聞き、自分自身の考えを表現できる。		
学習成果の評価基準	「人間学」を通して感じたこと、考えたことを「人間学ノート」に記述する。「人間学」への取り組み姿勢（聞く、書く、語る）を受講態度の評価とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	人間学オリエンテーション 仏教讃歌講義・勤行練習	「授業要覧」を読む
2.	御命日勤行（１０月）「本学の願い」に学ぶ① 講話： 感話クラス：	教科書、人間学ノートを読む
3.	人間学座談①	御命日勤行を振り返る
4.	御命日勤行（１１月）「本学の願い」に学ぶ② 講話： 感話クラス：	教科書、人間学ノートを読む
5.	人間学座談②	御命日勤行を振り返る
6.	御命日勤行（１２月）「本学の願い」に学ぶ③ 講話： 感話クラス：	教科書、人間学ノートを読む
7.	人間学座談③	御命日勤行を振り返る
8.	御命日勤行（１月）「本学の願い」に学ぶ④ 講話： 感話クラス：	教科書、人間学ノートを読む
9.	人間学座談④	御命日勤行を振り返る
10.		
11.		
12.		
13.		
14.		
15.		

教科書	『親鸞 生涯と教え』（東本願寺出版）・「人間学ノート」
参考書	
学習成果の評価方法	受講態度（２０%）人間学ノート提出（８０%） 提出された人間学ノートにコメントし、フィードバックします。
特記すべき事　項	人間学は全学を学年ごとに二分割し実施する。 講話・感話クラスについては、別途知らせる。
質問・相談等の受付	

科　目	臨床心理学（特講）	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	臨床心理学における心理療法・カウンセリングの基本を理解し、愛着の問題や児童虐待などの心的外傷に関する支援方法を学ぶ。		
到達目標	愛着の問題や児童虐待などの心的外傷のある子どもに見られる特徴を理解し、早期に気づくことができるようになる。また、子どもへの心理的支援および保護者への対応について理解する。自分史を振り返り、保育者としての課題を見つけることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している心的外傷のある子どもへの理解と支援に関する学習の達成度を測るために、到達確認テストを実施し評価する。また、自分史の作成も評価の対象とする。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	こころの仕組みと保育	シラバスを確認しておく
2.	心理療法の基本的な考え方①精神力動論的立場	フロイトの理論を復習する
3.	心理療法の基本的な考え方②認知行動論的立場	学習理論を復習する
4.	心理療法の基本的な考え方③人間成長論的立場	マズローの欲求段階説を予習しておく
5.	保育心理士におけるカウンセリング	相談しやすい人が持つ共通の特徴について、考えを整理しておく
6.	カウンセラーの基本的な態度	配布資料を復習する
7.	カウンセリングの様々な技法	配布資料を復習する
8.	愛着理論①アタッチメントとストレンジシチュエーション	愛着について1年前期に習ったことを復習しておく
9.	愛着理論②愛着障害	愛着障害について復習する
10.	愛着理論③愛着障害に対する対応と支援	愛着障害と発達障害の鑑別のポイントについて復習する
11.	トラウマ理論①単回性トラウマとファーストエイド	ファーストエイドの実践を人形等を用いてやってみる
12.	トラウマ理論②慢性反復性トラウマ	児童虐待の現状について、これまで学習したことを整理しておく
13.	児童虐待①チャイルドマルトリートメント	しつけと虐待の違いについて意見をまとめておく
14.	児童虐待②事例検討	配布資料を読み込み、レポートを作成する
15.	児童虐待③事例検討ふりかえり	配布資料を読み込みレポートを作成する

教科書	なし
参考書	なし
学習成果の評価方法	受講態度（10%）授業内課題（50%） 【　自分史作成レポート　】（40%）
特記すべき事項	臨床心理士として10年の実務経験
質問・相談等の受付	研究室に質問に行く

科　目	保育心理演習	開講時期 履修方法	２年前期 選択、専門科目
担当者	河村陽子・岡田健一	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育心理士としての基礎的概念を理解し、子どもの気質的、または環境的背景の観察や把握、および支援方法について学ぶ。さらに、大人にとって「問題行動」と思える子どもの言動を深く理解し、個別支援実習に備え、その子に合わせた支援を考える。		
到達目標	プレイセラピーの基本や、子どもの内的イメージへの理解を深めることができるとともに、子どもの心やその表現に寄り添う姿勢を身につけることができる。 「問題行動」を子ども側から理解し、子どもの内的なメッセージを受け取る姿勢を身につけることができる。さらに、個別支援実習に向けた準備が整えられる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示しているプレイセラピーの基本理解や、子どもの内的世界への理解の達成度を測るために、到達度確認課題を実施し評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	保育とセラピー	子どもの「遊び」の意義について1年次に学習したことを整理しておく
2.	プレイセラピーの基本	アクスラインの8原則について復習する
3.	事例で学ぶプレイセラピー	慢性反復性トラウマについて復習しておく
4.	保育現場におけるプレイセラピーの活用	子どもの頃に夢中になった遊びを考えておく
5.	事例で学ぶ表現療法①アートセラピー	象徴表現について復習する
6.	事例で学ぶ表現療法②サンドプレイセラピー	象徴表現について復習する
7.	体験で学ぶ表現療法①コラージュ療法	配布資料を復習する
8.	体験で学ぶ表現療法②クレパス画・スクイグル	配布資料を復習する
9.	子どもの「問題行動」の理解	子どもの「問題行動」の例を探してくる
10.	「問題行動」場面における子どもの心の理解	「問題行動」場面における子どもの理解を考えてくる
11.	子ども理解に合わせた日常での支援の工夫	支援の工夫を自分でまとめる
12.	教科書発表（前半）	教科書を読みレポートを作成してくる
13.	教科書発表（後半）	教科書を読み、レポートを作成してくる
14.	事例検討：ケースの見立てと個別支援計画	事例理解のポイントを復習する
15.	個別支援実習に向けて	個別支援実習の準備を整える

教科書	山田真理子（2004）：子ども・こころ・そだち―機微を生きる―，エイデル研究所
参考書	なし
学習成果の評価方法	受講態度（20%）教科書発表（20%）授業内課題（60%）
特記すべき事　項	保育心理士（二種）必須　※　個別支援実習を希望する学生は必ず受講すること 河村：臨床心理士として10年の実務経験, 岡田：臨床心理士として18年の実務経験
質問・相談等の受付	研究室に質問に行く

科　目	保育心理	開講時期 履修方法	１年前期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・吉栁佳代子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	本科目は、保育心理士（二種）養成課程の科目である。保育心理士資格の概要や専門性への理解を深めるとともに、保育心理士養成課程の学びの基礎を培う。授業の一部は、１日ワークショップ（5コマ対応）として開講する。		
到達目標	１．保育心理士の仕事について理解するとともに、保育心理士にふさわしい子ども観、態度を身につける ２．保育心理士として子どもや保護者と関わるために必要な人間性やコミュニケーション技術の基礎を学ぶ ３．子ども理解と観察の視点を学ぶ		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している３点の到達度を測るために、受講態度（積極的参加）に加えて、授業内課題と１日WSレポート課題を実施し、評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
１．	オリエンテーション１ 保育心理士資格の背景と役割、日本の環境と子どもの現状、保育現場の新しい課題	配布資料を読み直す
２．	オリエンテーション２ 学びの動機と目的、保育心理士にふさわしい子ども観、態度	配布資料を読み直す
３．	感性のトレーニング１（からだで感じる）	配布資料を読み直す
４．	感性のトレーニング２（気持ちとの距離を考える）	配布資料を読み直す
５．	感性のトレーニング３（気持ちや感じを尊重する）	配布資料を読み直す
６．	０歳～5歳の発達　その１	教科書をまとめる
７．	０歳～5歳の発達　その２	教科書をまとめる
８．	感覚統合　その１	配布資料を読み直す
９．	感覚統合　その２	配布資料を読み直す
10.	障害のある子ども、アセスメント、発達の特性に合わせた保育	配布資料を読み直す
11.	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション１（リラックスと表現）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する
12.	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション２（信頼とコミュニケーション）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する
13.	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション３（想像と創造）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する
14.	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション４（共感と協同）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する
15.	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション５（イメージ表現）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する

教科書	山田真理子(1997):機微を見つめる－心の保育入門－．エイデル研究所.
参考書	山田真理子・原陽一郎(2007):抱っこしてもいいの？－Q&A子どもに学ぶ子育てのヒント－．エイデル研究所.
学習成果の評価方法	受講態度20%、授業内課題50%、１日WSレポート30%
特記すべき事項	保育心理士（二種）必須 単位取得のためには、2021年7月11日に実施される１日ワークショップに必ず参加すること（昼食代等、別途実費負担）。
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業後の立ち話か研究室で受け付ける。

科　目	保育人間学	開講時期 履修方法	２年前期 選択、専門科目
担当者	吉元信暁	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	真宗、仏教に関する基本的な用語を学びつつ、真宗保育の理念として大谷保育協会が掲げる「本願に生き、ともに育ちあう保育」について共に考えていく。		
到達目標	・真宗、仏教に関する基本的な用語を理解し、自らの課題に引きつけて考えることができる。 ・保育とは、人間とは何かについての問いをもつことの大切さを知り、視野を広げ、豊かな人間性を養うことができる。 ・真宗保育とは何かという課題をもつことができる。		
学習成果の評価基準	到達目標の達成度を測るために、毎回の振り返りや小レポートを実施し「受講態度」の評価とする。また、授業の最後に「期末レポート」を実施し到達目標の達成度を評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
1.	ガイダンス・授業概要の確認	『授業要覧』を読む
2.	人間として誕生した意味	テキストを読む ノート整理
3.	命の連続性と尊厳　小レポート	テキストを読む ノート整理
4.	幸せの物差し	テキストを読む ノート整理
5.	私とは何か　小レポート	テキストを読む ノート整理
6.	ともに生きともに育ちあう	テキストを読む ノート整理
7.	保育園・幼稚園・こども園の特性を生かした支援	テキストを読む ノート整理
8.	悩みを宝物として　小レポート	テキストを読む ノート整理
9.	学び続ける　期末レポート	テキストを読む ノート整理
10.		
11.		
12.		
13.		
14.		
15.		

教科書	『真宗保育のカリキュラム入門』大谷保育協会
参考書	『いっしょに大きくなぁ～れ―はじめて真宗保育にであう本―』東本願寺出版
学習成果の評価方法	「受講態度」〔毎回の振り返りと小レポート〕（７０％）、「期末レポート」（３０％）
特記すべき事項	
質問・相談等の受付	授業後、研究室、九州大谷Online等、いずれの方法でも可能です。

科　目	個別支援実習	開講時期 履修方法	２年前期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・河村陽子	授業形態 単位数	実習 2単位
授業概要	本科目は、保育心理士（二種）養成課程の科目である。児童福祉施設等において約２週間の実習を行い、対象児を１名決めて理解を深めるとともに、個別の支援の計画を立てて、可能であれば実際に実施し、支援の効果を評価する。		
到達目標	１．個別の支援が必要な子どもに気づき、対象児の理解を深めることができる ２．対象児の理解に基づき、個別の支援計画を立てることができる ３．可能であれば、支援の計画を実施し、支援の効果を評価できる		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している３点の到達度を測るために、実習巡回時の様子に注目するとともに、実習記録の確認を行う。合わせて、実習施設の評価と、実習の準備状況についても考慮する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
	（実習前半） ・個別の支援を必要としている子どもを選び、対象児とする ・対象児の観察、職員への質問（守秘義務に配慮）を通して、対象児の情報を集める （訪問指導） ・科目担当者の訪問指導（巡回指導）を受ける ・訪問指導では、集めた資料と支援の計画を伝え、助言を受ける （実習後半） ・職員と相談しながら、支援の計画を決める ・可能な範囲で、計画した支援を実施する （注意点） ・個別支援実習指導とセットで履修すること。一方の単位が認められない場合、もう一方の単位も不合格とする ・別途行う実習準備に参加しない場合や、期限内の書類の提出がない場合、課題がクリアできない場合は、実習を開始できない ・抗体検査や予防接種、細菌検査等、実習受け入れに必要な準備が整わない場合は、実習を開始できない ・実習には、実習費および、食事代等の実費が必要となる	実習時間に起きたことの記録（実習記録）を作成し、対象児の理解と自己理解を深める

教科書	岡田健一(2021)：個別支援実習ワークブック.
参考書	牧野桂一・山田真理子(2007)：保育心理. 樹心社.
学習成果の評価方法	実習施設による評価・実習事前準備30%　大学評価70%
特記すべき事　項	保育心理士（二種）必須 注意点については、授業計画（授業内容）も参照のこと
質問・相談等の受付	実習中の相談は、個別にお知らせする連絡先で受け付ける。

科　目	個別支援実習指導	開講時期 履修方法	２年後期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・河村陽子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	本科目は、保育心理士（二種）養成課程の科目である。個別支援実習での取り組みを、事例検討という形で振り返りながら、保育心理士としての子ども理解の視点と具体的な支援を学ぶ。単位取得を希望する学生は、自分の個別支援実習の様子を発表すること。		
到達目標	１．実習での取り組みを事例レポートの形でまとめ、報告できる ２．対象児の生活の様子から、対象児の願いとニーズを理解することができる ３．対象児の安心安全な生活保証し、成長を促す支援を考えることができる ４．支援者としての自分を振り返り、自己の課題と成長の方法を明らかにする		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している１を測るため、事例発表を評価する。４を測るため、最終レポートを評価する。２および３については、事例発表、他の学生の発表へのコメント、最終レポートにて評価する。		

	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習
１．	オリエンテーション	授業後、事例レポートを作成・提出し、個別の添削指導を受ける
２．	事例検討１	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
３．	事例検討２	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
４．	事例検討３	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
５．	事例検討４	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
６．	事例検討５	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
７．	事例検討６	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
８．	事例検討７	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
９．	事例検討８	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
10．	事例検討９	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
11．	事例検討１０	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
12．	事例検討１１	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
13．	事例検討１２	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
14．	事例検討１３	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん
15．	事例検討１４	報告者：授業前に事例レポートを準備する 参加者：授業で感じたこと・学ん

教科書	岡田健一(2021)：個別支援実習ワークブック.
参考書	牧野桂一・山田真理子(2007)：保育心理. 樹心社.
学習成果の評価方法	事例発表30%、事例検討への積極的参加40%、最終レポート30%
特記すべき事項	保育心理士（二種）必須 ・個別支援実習とセットで履修すること
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業後の立ち話か研究室で受け付ける。